

昭和三十六年三月十日招集(才一日)  
第一面市議會定例会々議錄



館山市議全第一回定例会々議録(第一号)

昭和三十六年三月十日招集

一三月十日(金曜日)

一現在議員三四名でその氏名次の通り

- |    |   |     |     |    |   |    |     |
|----|---|-----|-----|----|---|----|-----|
| 一  | 番 | 山本  | 昇   | 二  | 番 | 脇内 | 順一  |
| 三  | 番 | 三沢  | 節   | 四  | 番 | 志村 | 信作  |
| 五  | 番 | 岩崎  | 静敬  | 六  | 番 | 奥田 | 繁   |
| 九  | 番 | 吉田  | 勇治郎 | 一〇 | 番 | 佐野 | 信   |
| 一一 | 番 | 川名  | 秀吉  | 一二 | 番 | 黒川 | 佑太郎 |
| 一三 | 番 | 長谷川 | 光江  | 一四 | 番 | 江田 | 徳太郎 |
| 一五 | 番 | 小林  | 寅之助 | 一六 | 番 | 石井 | 孝   |
| 一七 | 番 | 安沢  | 徳順  | 一八 | 番 | 安西 | 政治  |
| 一九 | 番 | 法木  | 嗣郎  | 二〇 | 番 | 森生 | 田七郎 |
| 二一 | 番 | 後藤  | ゆき  | 二二 | 番 | 田中 | 禄郎  |

- |     |        |     |        |
|-----|--------|-----|--------|
| 一四番 | 吉田 辰雄  | 二四番 | 飯田 義男  |
| 二五番 | 鈴木 方藏  | 二六番 | 鈴木 孝太郎 |
| 二七番 | 田中 忠藏  | 二八番 | 加藤 良太郎 |
| 二九番 | 遠山 ヨネ子 | 三〇番 | 北山 茂雄  |
| 三一番 | 田村 喜兵衛 | 三二番 | 鈴木 孝   |
| 三三番 | 山口 幸三  | 三四番 | 松本 藤太郎 |
| 三五番 | 山口 康   | 三六番 | 嶋 貫太郎  |

一歳事日程

第一 報告第一号 昭和三十五年十一月例月検査報告

二号 二月臨時出納検査報告

第二 認定第一号 第四号 決算審査特別委員会委員長報告

第三 市市政方針並に議案提案説明

第四 議案第二号 館山市庁舎建設事業費継続年期及び支出方

法書の変更について

第五 市庁修式館建築物並びに付属物件等には收受について

議案第三三三号

議案第一四号 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償

に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第一五号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について

議案第一六号 館山市商産奨励委員設置条例の一部を改正する 条例の

第六

制定について

議案第一七号 館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について

議案第一八号 館山市図書館条例の一部を改正する条例の制定について

議案第一九号 館山市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の

制定について

第七

議案第二〇号 幼稚園保育料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二一号 青年学級授業料徴収条例の一部を改正する条例の制定について

第八

議案第二二号 館山市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について

第九

議案第二三号 館山市市営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について

第一 議案第二四号

館山市職員定数条例の一部を改正する条例の制定について

第二 議案第二五号

館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

第三 議案第二六号

館山市職員、退職年金に関する条例の一部を改正する

条例の制定について

議案第二七号

罹災救助資金蓄積条例を廃止する条例の制定について

議案第二八号

北条振興財産積立制度を廃止する条例の制定について

議案第二九号

基本財産を廃止することについて

議案第三〇号

特別基本財産を廃止することについて

第四 議案第三一号

総経費設定について

議案第三二号

起債について（一般会計）

議案第三三号

起債について（特別会計）

第五 議案第三四号

一時借入金について

一、法第百三十一条によるお府説の受

市

長

田村利男

消防署長	逓信書記長	建設課長	市民課長	農林統計課長	保険課長	厚生課長	福祉事務所長	商工水産課長	税務第二課長	秘書課長	総務課長	収入役	助役
安藤 竜吉	大島 重義	新井 重助	高木 哲三	吉田 耕一	神作 啓次郎	伊藤 幸太郎	長谷川 玄治	羽山 秀雄	多田 俊一	山本 潤和	山口 実	実戸 貴	小出 武男

税務第二課長代理 角田 巖

教育 長 工藤 和 平

庶務課長 鶴 沢 貴 寛

庶査委員 川 上 栄

一本議会の事務局長書記及び職員

事務局長 高 梨 清 一

書記 太 田 博 雄

職員 井 藤 恭 一

同 山 口 晴 之

一千前十時三十分開会

一欠席議員二名

大 務 嶋 田 策 一 七 番 安 沢 徳 順



議長（山本日升喜）本日のお席議員数三三名これより昭和  
三十五年度第一回定例会市議会を開会いたします。

本定例会の議案説明のため田村市長、小松助役  
児戸収入役、山日課長、山谷課長、多日課長、  
羽山課長、新井課長、高木課長、青田課長  
神作課長、伊藤課長、長谷川所長、大嶋書記長  
安藤署長、角日主事、工藤教育長、鶴沢課長  
川上監査委員以上の出席を求めましたので報告  
いたします。

会議録署名員の決定を行います。

本定例会会議録署名員に三番議員、三沢節彦、  
三五番議員、山口康彦以上両君を指名いたします。  
これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）御異議な—と認めます。よって決定い

た—ました。会期を決定を行います

本定例会の会期につ—て議会議事協会の  
意見は二。日以内と—う—とであります。

お—り—ます。会期を本日より三月二十九日まで

の二。日—と定めます—に御異議—び—せん  
か。

（「異議な—と—呼ぶ者あり」）

議長（山本昇君）御異議な—と認めます。よって会

期は二。日と決定—ました。か—ねてお—り—

ます。従来—例になら—てお—手元—に配—

した会期日程表は本定例会の大体の日取り—  
であり—ますが、議会議事協会の意見によ—り

作成—た—ものであります。お—い—この会議日程表

により本定例会を運びます」とともにこの間  
議案の追加または議事の都合等によりする  
その都度これを改めることにて大体このように  
なつたかと思ひますが御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇彦)御異議なしと認めます。よつて決定  
しました。議案の配布をなします。

(議案配布)

議長(山本昇彦)議案の配布場所はございませんか――  
なしと認めます。本日、議事はお手元に配布の日程  
により行います。ただ今までに議長が手元に送付があ  
ります。議案オ一ニ号B至四〇号並にオ四五号  
及び報告オ一号、オニ号さらに出るオ四四定例  
会におつて委員会付託とされます。た認定オ一号

口至才四号を一括して議題といたします。ことに御  
異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇彦) 御異議ござい—と認めます。よって決  
しました。議案才一ニ号、口至才四〇号、才四五号  
及び報告才一号、才二号、認定才一号、口至才四号  
を一括して議題に供します。

口とおぼかりました—ます。  
ころ際各議案、朗読はこれを省略するにとに御  
異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇彦) 御異議ござい—と認めます。よって決  
しました。ただ、口より日程に従い—と順次上程いた  
します。日程才一報告才一、昭和三三年度一月例目

検査報告並に報告オ一号ニ日臨時公納検査  
報告を上程矣一ます。

(書記朗読)

議長(山本昇君) 報告オ一号オ一号に付一ます川上監査  
委員の説明を求めます。御登壇願ソます。

(監査委員川上榮君登壇)

監査委員(川上榮君) たびさより 報告オ一号昭和三五  
年度一ヶ月例月検査の結果を御報告申一上ります。  
三五年度一般会計一ヶ月末現在歳入にかきま一て  
市税の調定済額一億五千七百三十一万八千二百三円  
収入済額一億二千二十六万五千六百五十八円  
収入未済額四千七百五万二千五百四十五円 税外収入  
におそ 調定済額一億六千五百五十二万四千六百三十九円  
収入済額一億六千二百六十八万四千三百六十七円

収入未済額 二百八十三万七千三百七十一円

歳入合計 調定済額 三億二千三百八十三万九千八百四十

二月 収入済額 二億七千三百九十五万二千五百 収入未済額

四千九百八十八万九千八百七十七円 支出 支払ひ通知額

二億四千二百七十八万二千八百二十二円 支払ひ額 二億四千

二百七十六万五千七百六十七円 予算残額 一億二千九百

二十九万五千二百六十九円 となりております。 差引き三千

十八万三千三百五十八円 残となりております。

・西春（松本藤太郎君）議事進行につれて、

川上監査委員の御報告 ざくろうさまでございます。

今報告を受けておりますが、その中で重要な市税

の収入未済額 四千七百万円、 こういう場合に納期が

きておるもの、 または入つてないとか、 そういふものな

ことが、 過年度の分と、 いろいろ残つておる分、 それから

納期がきていないものがあるわけですから、そういう重要  
なところを教えて、ただ、数字はみればわかりますから、  
そういうところを御報告願いたいと思います。

監査委員（川上栄彦） それでは市税の収入状況におきまして  
御説明申し上げます。決定額とは、ただ、御報告申  
し上げた通りでありまして、納期が未到来の金が二千  
五百七十八万三千八百八十三円でありまして、正味未納額は  
二千九百九十三万四千三百六十三円となっております。納期  
が未到来に対する収入割合は、八三・四％となっております。  
また、次に公益貨屋におきまして、収入三百八十五万  
八千六百八十円支出におきまして、三百五十八万六千六百  
七十九円差引き四百七十八万六千五百九十九円の赤字となつて  
おります。あとの特別会計は、お手元に配布の表にござ  
る御了承願います。

次に報告才ニ号昭和三三年度二月臨時出納検査の  
結果を報告申し上げます。

調定済額は市税におきましては一億六千九十九万  
五千五百五十五円 収入済額は一億一千六百三十三万二千二百六  
十七円 収入未済額は四千四百六十七万三千七百八十八円  
税外収入におきましては調定済額一億七千七百四十  
二万七千九百五十九円 収入済額は一億七千四百九十六万四千  
六百七十七円 収入未済額は三百四十六万三千三百五十一円  
収入の合計におきましては調定済額三億三千八百  
四十二万三千五百五十五円 収入済額に  
おきましては

二億九千九百三十八万五千八百八十四円 収入の未済額  
は四千七百七十七万七千七百五十一円 収入未済額の内訳を  
申し上げます。納期が未到来額は二千二百五十三万  
六千七百三十三円 正味未納額は二千二百十四万七千六百六十九円



議長(山本昇造) おはかりです。

「異議なし」と呼ぶ者あり

三六番(鳴貴社作意)予算額が三億七千二百萬あり

それから収入されてゐるものが二億七千二百万ばかり  
あるのです。この差額が一億月というものが今後入  
ってくる見通しを以て御説明願います。

市長田村利男君 大体たゞいままで八割の収納があり  
まして今見込みといたしましては五月の末  
まで九一%の見込みがござります。従つて  
本年度の本増額が三千万をわりまして千八百万  
程度の増納ということになる見込みでござります。

三番(鳩貫社作君) ほんなものが入ってくるかということ  
をお尋ねいたしております。

総務課長(山田実君) お答え申し上げます。次頁  
の一般会計財政状況表をらんになつていただ  
きます。その表によりまして予算額と増定額  
の関係をらんしたと大きく大きなもので市債というものが

ございます。さういふものが現在入つてゐない關係上……  
・三々番（嶋貫社作老）一億円ありき食違ひがあるりで  
す。あゝとこんなものが入つてくるか。さう見通しを  
御説明願ひたいと思ひます。一億円まだ入つてゐな  
ければ予算額に達しな。さう一億円になるものが  
どんなものがあるか聞つてゐるのです。

・総務課長（山口実老）市税において四千万入ります。  
交付税で一千万。使用料で三百万。国庫補助金で  
二千五百万。果の支払金で二百五十万。寄付金で  
三百万。市債でもつて二千二百万入ることになつて  
おります。

議長（山本昇老）御質疑ございませんから以上  
で説明を終ります。さうで御了承願ひます。  
競う日程を認定才一号乃至才四号を一括し



去る十一月三日招集の十四回市議会定例会に於  
て委員として選任いたる委員は、私にも決算審査特別  
委員会に附会中審査の特別付託と知り、之に認定分  
一号の十一号四号即ち昭和二十四年決算書の審査  
査として三月一日委員会に招集され、之として各会計に  
おける決算を慎重かつ精細に審査を行ひ、之に  
申し及びるものも、本決算書に於て、之は  
五月嚴格かつ精細に審査し、其の結果  
は意見書に於てあり、その正確なることを認めら  
れておるのであります。私は、委員として、付  
議会の立場より付託され、之に趣旨を述べ、之  
に慎重細密に審査を行、之に認定分  
と、之に審査を過し、之に於ける事項を申し及びる  
と存じます。

先丁文へお出た一敷市税におきまして不納欠損額四十余万圓に對してこれは絶対増収不能なものである。又木材引取税の四万圓は常態的に考へても実に少ないと思ふが、この増収への過程並にその性質についてお説明願ひたいとの質問に對しては市税へ欠損額につきましてはこの中にはすくなく館山市の支出として、該当者と現に生活保護の對象となつてゐる該当者があつてゐる。してお求め得る限りの手段は請ひて、それが結果増収でござんたものであります。又木材引取税におきましては申告納付ということになつてゐる。して本人が申告しない場合には直接実態を調査して増収に當つてあります。が尚一層増収に努力する旨の回答があります。

この点につきましては市は今後の程度へ財源を見込み  
得るかとの見通し、もし見込み下で下れるよう  
なれば的確に把握するにしようというふうな等  
の見解如何との質問に对しまして方針という  
事については増収の目標下で、ありまして如何に  
なすも夜へてすえは申告でございまして  
て申告を待っているも入ってこないという事に  
なりますれば職員に現場に派遣して現場であら  
えり以外に手はないと考へてある旨の答弁があり  
ます。次に住宅使用料の不納がございします  
がこれはどこかうきとまものかとの質問に  
对しましてこれは答へるべきと答へておられ  
ます。そして分厚生寮分厚生寮の人達で割  
合で低額所得者のために若干の不納者を  
生じた実状であり三五年分には納められて  
いる旨の答弁があり

ました。

次に果ては金におまゝして教育補助金に給食費  
 におまゝしますが最近では物資が豊富になつて参り  
 まして家庭食に比してましていものが出されるので  
 一部の子弟が好んでいないと聞くが、また、継続して  
 いくかとの傾向に對しては館山市の場合にはやはり  
 給食費そのものが安いのでこれに原因があると思ひ  
 ますが栄養、カロリーににつきましては決して落ちて  
 いない。現在館山市に実施して居りますのは三校で  
 今のところやめたいという学校はない旨の答弁がありま  
 した。

次に寧ろ金におまゝして特に土木費教育費等の案  
 には却つてこの様な考えを持つてゐるかとの傾向に對し  
 まして教育費は金に對してましては特に義務教育



は公費でもって賄うことが建前でありますので  
その線にぞっていくわけでごさいますがいち  
現場からの注文がありまして教育内容の充実と  
いう見地からどうしても必要であり緊急を高い  
ものへと予算を振りあて、ありますけれども父兄  
が子供を受取る熱情から特別の施設をしていというこ  
とであうわけの事は金を要する、いれぬ既成事実を  
作りその金に於て是非市の補助金をしていまして  
いう場合が多いのでございまして父兄には負担をかり  
ないという理念は捨て、はありますせんが誠に遺憾では  
ありませんがやむを得ず現状にある旨の説明があります  
した。

又土木事は金につまみましては一応事は金でなくして  
これをも柔例化し負担金としていっていただく方が

法と考えています。が、年々膨大になつてゐります。予算・現況におきまして従来は修繕にいたつても負担金といふことゝしてゐりました。三、四年来その様すもつはとうとう道路の新設とか舗装の実施といふものに限つて、寧ろ金といふことゝしてゐります。土木費に於ける負担金は少くして来ている実状である旨の答弁がありました。

ごお察はに因連して特に教育関係に多いのです。市予算がなによりPTAが備品など、電灯等と学校當局と折合ひで作つてゐるものが相当あると思ふが、違法ではないか。もう漏電の多い場合、市の財政でない電灯かう大勢の場合責任の基準下といふものゝていくかという懸念もあり又正に市のものではないもの、市員下におくという場

合もあるわけが、今後昇格するというものにつきます。でも必ず一応は市の案はさせるという形式下是非として、いつきつと希望意見に対して、当面より今までは観念的に市に昇格されるものと承知して、いつか今年あたりは、その様な場合は学校から昇格を申込み、致さずして正式に市に受け入れようと、答弁があり、して承知します。

次に文部におきまして、大分各款に不用額が多く目立っているが、予算執行に当たっては、権威ある予算であれば、不用額もごく不足額もないという執行、その責任ある行政ではないか。例えば教育機関において、少しい予算下更に節約しろといつて、非常に運営に支障をきたすという事もあって、予算は少くとも議会、協賛を得て成さしたものである。

かうぞ、線に沿つて執行することゝ責任ある行政  
ではないかと、質問に對して、この不用額と  
申すものは当初におきまして全体へ見積り予  
算下編成するわけですが、これも過去の実績  
を過といふもの下へ考へてなるべく、實際に  
即ちする予算下編成するわけですが、編成途上  
におきまして一年間へ見積りなめいづるな変動  
があり、その変動によつて生ずるものと、もう一つは  
個々の執行面におきましてなつて所要の全費を  
効率を下げずに執行するといふ考へのもとに執  
行途上において節約を要請します。こゝに事  
が繰越財源になり追加財源になり流用財源にな  
るわけでございます。この様子を考へのもとに執行  
いたして、終了するや、当初予算に比較いたします。

と不用類はでますかそれが為になるべき仕事を  
やうなものである例えは百五万の予算のものな  
ら九十五万であつてもういふその様に努力節約し  
たものが累積し本決算書にあらわれたい不用類に  
なつてゐるやうです。答へはあります。

次に予算の追加更正が年度後半のういふ知らず半に  
おいて更正ということはつゝしあつてはつたか  
と質問に對して追加更正につきましては御意見  
へ通り前年第四半期に追加することは当初予算の  
構成というものと疑ふものがあるものとします。し  
かしやゝも得ないものは仕方ないのです。執行部といつても  
しても第一四半期・第二四半期に追加更正予算ので  
る場合は極力注意をいたしてゐるやうに思います。  
三、四年度は若干あると事と遺憾に思つてゐます。

凡そ第一回半期頃かう追加してもっていくという事は予想しない場合のみ極限されるわけでありまして主として後半期に行われるというものが通例でございますが今後出来得る限りその様な趣旨で編成して参りたい旨の答弁であります。

次に消防費におきまして消防団員の手当てにつきましては、既に考えられているが本年は本年はどのような様になるか、いかと、賃肉に對しまして従来一人年額六〇〇円のものも今圓は八〇〇円に考えており団員数は大体五〇〇名位との説明があります。

高消防費におきまして野水池の新設消防器械の購入等が見受けられますが何故に設置してある、消防委員会にお聞きになうないかとの賃肉に對しまして消防委員会は一応市長に諮問機関でございます。

まして重要な案件、本年次に之とて申すすれば  
消防庁舎の建設とかの場合には委員会を招集して御  
意見を承りたいと考えてゐる旨の答弁がありまして  
次に土木費におきまして、乗材料費についてはどの様  
に使用されてゐるか、市民に於て第一番の還元であ  
ると思う道路並々に学校等になお一段と力を注い  
でもういたいことと希望するが、今後のあり方として  
どう考へてゐるかとの質問に對しまして、先ず乗材  
料の購入方法ですが、これは主として平之里川の  
砂利を買つて使用してゐます。本年は大分使  
用が少なかつたので、この様な不要額を生じた結果  
になつたのであります。これは館山航空隊の所に  
ございまして、赤山の碎石に使つたつと八幡付近から採  
取したものを使用したのがその理由でございまして、

又砂利使用状態と市道修繕に關する質問に對しては  
 砂利は現在あるは平久里川の砂利だけで到底要望  
 するだけの量ではありませんので三台ありますトラッ  
 クでフルに使用いたしまして岩石を利用して砂利  
 の不足を補うと云ふに果外の砂利を購入して取りま  
 す。市道の修繕については舗装の奨励をいたしま  
 す。早くて早くてある簡易舗装というものも研究・試  
 験の結果がよりければこの方法で進んで参りたいと  
 思ふ。答弁であります。

次に負担金についてはこの位の率でござれている  
 かとの質問に對しては果で施行する工事でも  
 工事の種類によつて違つてます。が舗装の場合果單  
 独の舗装は工事費の二分の一、同じ果では事でも  
 重なる舗装の舗装では四分の一、道路改良につつま



しては四〇％である旨の答弁がありました。

なお負担金につきましても道路などの改修その他の補修費用に對しては地元とか受益者に對し負担金があるがこれは本質的にみてよくないことではまいいか。結果のうみては経済力のある市街地はといふ補装する。反面旧六ヶ村は地域だけは云いが負担力が少ないので旧態依然たるものがある。このような事を考へる時アムバラースのかんは——すい結果が生まれてくる。少くとも将来これ下減減するとか、なおでき得ればよくする線に持っていつていまいきまいが考へはどうかという質問に對しては地元負担金でございしますがこれを軽減するとか撤廃する事は最も望ましくないのであります。が、龍山市の場合財政的に困難と

はするのてございまして参考ではございましてが  
千葉のときも先輪のような相当収入の多い事業と  
してある市におきまして市内の道路を作る場合  
には三分の一の負担下としてある現状です。

館山市におきまして最近橋梁その他については  
地元に負担下をかけないようにと考えまして旧大々村  
にも相当鉄筋コンクリートの橋下かけをしようなわけ  
です。が順次金の、うまい方向に持っていく考えで  
ある旨、答弁を申し上げます。

次に公園の管理費におきまして館山市も文化都市  
観え都市として将来伸びるとしているのてあります  
が公園の管理というものは重要な事でありまして  
監督してもらうといふものと、負荷に耐えておいて  
書面には公園の管理費の負担金は支出の七割、てあり

ます。がこれは手入れて「なるか、たのではなく」丁交  
この年は方舎等とや、てあり「なる関係で支出  
下向違之「て土木費の方から支出して「なる  
わけではないに「なる「ても専属の管理人下  
置の「ければ「なる「と考えて「あり「ます旨の答  
年がありました「なる「

次に都市計画整備事業等に「あり「て食糧費が非  
常に活用されて「ある「残るもの「なる「は事業費の方  
へ入れて「便しても「ない「旨の要望に「対「して「この  
年は市庁舎にとりか、て「あり「て果、本省の  
方から人があります「なる「たのと又来ても「この費用  
からの支出を「なく「市役所費その他の費用から支出  
下向懸「なる「関係で「なる「様は結果に「なる「旨の答并  
みありました

次に教育費の諸手当についてこの手当即ち病直とか超勤は正當に支出されてゐるかとの質問に対しまして超勤につきましては労働基準法に基いてものでございますが社会全般的な常識範囲におきましてはと云ふ設計でも会社でも規定通り払つてゐるといふはあやうくないのではありませんか 勿論労働基準法の権利ではございますが非常に見解が広い範囲で私のおり得る範囲では予算限度内で支給してゐるといふのが一般ではないかと思ひます 正しく言うすれば全部正規通り支給するのが正しいのですが現状におきましてはそれだけ予算を廻りないといふのが現状で当局におきましては都合との話し合ひのもとに正規のもうは支給してゐない旨の回答がございました。

次に財産管理費に土地借上げ料があります。地主の  
中には学校の事だからと税金にも足りない様な願を  
提供してあるものがあるときくが、こゝに問題と解消  
する為に一時とは申しませんが、遂次この土地も相当の  
額で買ふことになるかと、質問に答へて  
こゝまで詳細に答へ十分の三の標準で支払つてあります。  
が適当でないといふことで現在はないつゝあります。  
又土地を買ひ取つてもういいといふ要望もあり、すが  
予算化する<sup>段</sup>階では、いゝてありません。将来その様に  
持つていきたい旨の回答があります。

次に校庭の草刈が三ヶ月に一回ありますが、大分不満が  
あるときくが、三ヶ村では、六ヶ月に一回である  
が、本年からは、この額を計上したかとの質問に答へて  
て、校庭の手当につきましては、郡市の学校保険会によ

り六千円にてもつていゝと云々要望書もできてゐる  
 すが一応三六年度の四千円計といふ一時的な回答が  
 ありまして

次に難高について現在移管問題があります。館高の  
 実際の市から持出す経費は年間どの位か幼稚園  
 はどの位かとの質問に對しまして三四年度の決算に  
 よりますれば高等学校の費用が千三百四十万二千円  
 で授業料の収入が六百七十五万六千円差引ます市費  
 持出し六百六十四万六千円とあります。

幼稚園の方は七百六十九万月に對し保育料が三百  
 八十万六千円入つてありますので市費持出しが三  
 百八十八万四千円となつてあります。がいずれも交付  
 税で別にどの位入つてゐるという事は交付税の  
 増減上げ、より申してあげられない。自づから回答が  
 あります。

した、

次に教育費全般について常に教育費は非常に窮乏  
だという声があるが、あと何%程度のもので獲得し  
たう学校運営上完全なものが出来るか、従っ  
てP.T.A.の負担も少なくなるか、出来るかとの  
質問に対して、――でいい、今は、――何%とは  
申されませんが、教育の関係について中学校、小学  
校の教育課程が変、々という事が一番大きな問題で  
それに対応する予算が――も、必要かと思う、  
それと平行して――子供を入れる建物という  
ものの順序にならうと思いますが、それらで勘案し――  
――で本年分においてても教育課程の改定に必要な予  
算が得ることとに全力を注いでいるわけでございます、  
足りない分につきましては、逐々市の財政とにらみ

合せて補てんしていく考えております。なほP、T、A  
の会費につきましては執行部といえども、ましては軽  
減の方向に持っていく為努力しているわけでございます  
です。例えて申しますれば需要額の増額によつてP  
T、Aの負担を安下るといふことで話し合つた事もござ  
います。実質的には要求通りされていふのが現状で  
ございます。今後これら指導しているところである  
だけ父兄の負担を軽くせよめるよう努力するといふ目  
答弁であります。

幼稚園につきましては三十四年交で、たと思  
うが、予算市会において論議されたか。一応幼稚園は  
義務教育優先の観点から、現行採算制を至急する  
原則の下に計画を進められたいと思ふが、本決算書目  
に見ても何ら足りない様だと思ふ。これに対する



見解はどうかという質問に対して「計画といふものはあくまでも概算採算制の理想をもち、て至るべきものであるわけでございますが、人件費の自然増につまみ、これは避けられないことでございます。そして現在、段階では概算制は不可能な状態でございます。新卒主におきまして若干保育料の値上げと計画し、出来るだけ概算採算制の体系にもっていき、という理想のもとに進んでいる旨を答へてあります。」

次に八款社会及び労働施設費中生活扶助費、住宅扶助費、教育扶助費について件数はどの程度かであるか、質問に対し「生活扶助年間九、一四七人、住宅扶助三八七人、教育扶助三八五三人、医療扶助三、四六六人、<sup>出</sup>産費六人、生業費三、葬祭一五施設事務費

三四二人 大体世帯数にして三〇〇世帯でありまして現在と比較いたしますと内容において生活扶助や住宅扶助の該当者が減り反対に医療扶助を受けける者が多くなり総件数は大体横ばいの状態である旨の答弁がありました。

次に第十款産業経済費に占めます。市国経済発展の為に重要であるべき予算に於いて現状の額でも少ないと考へておるのに、より以て不用額を減らすという事は遺憾に思つております。特に助成金などは

市がまる／＼支出するものでないだけに執行部としては奨励して精一杯の仕事をしてさせるよう努力しなければならぬと思ふがどうかとの道向に對しまして本決算書によりまして百万余円の不用額ができております。——農林関係の事業につきましては

大体一〇％程交まで実施してございまして多少各  
目毎に不用額もございわけでございます。様は節  
約してござおかつ効果のよろう支出計画とてて農  
林業の振興の面につきまして日ますます重点的に実  
施して参りたい。なお水産費につきまして約四十  
一万八千円の不用額が生じたのであります。これは  
主として助成交付金の件数が見込みに達しなかつた  
こと、漁港関係へ工事請負費が若干予算を下まわ  
つた結果であります。又商工観光にも若干不用額が  
ございしますがこれは旅費等も節減の結果の答  
弁であります。

次に第十一款財産管理の中にも養果漁業振興株式会  
社へ株券が三〇〇〇株ありてあります。自治体で  
ありますのでこの様な投資については相当慎重にや

てもういいと思うがこれはどのような見地からや、た  
 のか、現在ほどの様子状態であつつか、又時西に見  
 積、この程まかとの質問に對して、全社の内容と  
 いやうしては、現在ベネスエラの基地においてカツオ  
 マクロその他漁業と操業してあります、がこれは  
 毎年決算期に廻りれて参ります、更に、うすくと相当  
 な収入をあげてゐる様ですが、また配当までには  
 至つてありません、なお林務等管理につきましては  
 収入役の方で嚴重に保管してあります、現在の様  
 面については一寸わかりないう、答弁があります、  
 次に第一五款諸支出金の繰越金で公益質屋会計へ  
 五十三万八千余月でているが、事業体別の按分はど  
 のようになつてゐるかとの質問に對して、この五十  
 万月分は公益質屋会計へそのまゝ、繰入れして決算

「まーたへで一本にござっている」目へ答弁があり了承し  
まーた、

市振興費において予備費の充用が大変多く見受けられ  
るがこれは予算化することが出来なかつたことと、質問に對  
しまーてこの予備費充用の多いという事はこの年市長  
が渡来いつまーたので渡来へ費用として六十万充用  
いつまーたがこれが主なるものである旨へ回答があり  
まーた、

次に第十六款 庁舎建設費にあつては、庁舎建設工  
以来とかく市庁舎の問題について新聞紙上よくとり  
てゐるが、庁舎に對する公社と市との保証について確認  
したいという要望に對し、當局曰く、庁舎建設の契約  
約がありまーてこの契約工に基きまーて庁舎が完全に  
受け渡されたとある期間故障がでた場合には公社

のすでそれより直轄して補修するといふ保証がござい  
 して契約書にござりますと鉄筋の場合三年間保証す  
 ることになつております。修理期間は三年と解される  
 竣工後一交而もリがあつたのでござります。これは工事  
 の不正といふこととてよく工事竣工よりエラーと申し  
 ます。ようかこれにより而もリがあつたのでござります。  
 保証契約に基きまして現存するものの原因にござります。  
 これは四回のみを調査試験してゐるわけが  
 ございましてその結果にござります。窓枠等は一年  
 良しものトござります。行く予定であります。

以下契約書の該当条文中に読み上げます。第ニ条  
 乙は之を但「乙は第ニ条に規定する引渡の日から  
 一年間工事的目的物に於て修補します。又はその間に  
 よつて生じた滅失もしくは毀損に對して損害を購

償いなければならぬ。しかしこの期間は石造土造レニガ造 金属造建物その他土地の工作物もしくは地盤のつしまはこれによる減失毀損については二年とする 即ち本市役所庁舎は鉄筋造りであるから修理保証期間は明白に二年と解釈してゐる旨の答弁であつた。

次に認定第ニ号 国民健康保険に入金出につぎつて赤字。原因はどこにあるか、診療所の性格からいって必ずしも赤字であることゝ非難するのではありません。んが市が相当支出してあるにもかゝらず利用する人が少ない この点非常に遺憾に考えております。どうせやるつもりと拡充整備して運営してはどうかという質問に対しついで答へは先ず赤字の原因といつては三四年前に医師が途中で病氣に

より休診——とが大変な原因に及びます。  
次に病院そのもの、経費等も考へて——と良い土地  
条件をばいふともあがりぬけぬけでございます。  
一応市といふ——では豊後市場所ありと整備  
してやうな今——と土地条件もよく環境もよく  
なるのはいいかという希望も、とあります。

いふに——と第一に良い医者も招聘  
ということに成功すれば、現在に従業員でも、と之れに  
運営できるものと考へる旨の答へがあります。

以上より決算審査特別委員会に付託となり、また決  
算書にありの審査を終了——と、更に三四年交  
中支差出面について比較的多額に支出され、当該  
ヶ所につき——と実態把握の意味で視察する事  
とよりと畜場、海岸道路等も視察——とあります。



九重小学校につきましては新しい感覺をもつた  
あかり入窓がつけてあり採光並ぐに防音には  
非常に良いと思われねがふ所一段と新しい物の  
建設については利点、欠点の研究調査の上施工し  
てもらうまい。

と場については蔵物が裏に貯蔵されておゝたが  
容量に限があると思われろつてこの処理について  
研究してもらうまいことを執行機関に希望いた  
し、て現地調査を終り、

なおお手元に配布しまして正誤表は各決算書の  
誤字でありまして詳細調査の結果各決算には何う  
計数的に異、常ありません。それ、御訂正下さる  
様お願い申し上げます。

その他決算書の各項目に亘り多種多岐にわたり

慎重かつ活発な発言があり、また、本委員会と  
いり、これは決算審査意見書にも付記されて  
あり、また通り、今日、地方自治体の事務事業は、時勢  
の進展とともにますます複雑多岐となり、事業  
量もまた年々増大の傾向にあるとき、これに対応  
する市財政の運営は誠に多難である。

当るは財政確保増強と経費の節約に努め、予算  
の合理的執行により、市財政の健全を堅持し、もって市  
民福祉の増進に努められたいことと強く要望し、また  
以上本委員会は付託をうけ、これを認定第一号の  
附し、第四号の決算書に對し、その正確なる事と  
認め、これを認定することと決定され、また、  
右決算審査特別委員会審議の経過並に結果と  
御報告申し上げる次第であります。

議長（山本昇君）以上で決算審査特別委員会報告  
書を終ります。ただいま委員長報告によります  
と決算書の誤字、誤植はすべて印刷、誤りと  
いうことで委員会を通じて提出されてきた正誤  
表を通りこれを訂正されたというところであります。  
これに御異議ありませんか

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）御異議なしと認めます。トつて正誤  
表を通りを決定されました。ただいまの委員長報告  
に対する御質疑ありませう。ただいまの御質疑は  
三番（田村善兵衛君）委員長報告の報告、感謝した  
流用、日付を調べたか調べないか、さういふことを御説  
明願います。

三番（田村善兵衛君）ただいまの御質疑は予算の

現用と云ふに於ての調へでございすす。それとは  
 一、先づ、先づ報告申上げました。とく  
 現用の範囲というものを限定して予算として正式  
 に計上したらいよいよなすかという意見が、あつたわけ  
 でございすす。

三番（松本藤太郎郡）介款にわたりまして詳細に  
 報告下さいまして了解した。とございすす。特に  
 委員長の報告の中で不用類について大きく各款  
 ふれており、すが、その中で道路整備の方でござい  
 すすが、相当道路の工事費が残つておりすす。

その中で、次、事業費の五万円ばかり、わすか、でございすす  
 が、資金が残つてある。すが、さういふ大で仕事はな  
 くなつて金が残つた。か、あるいは、未払者がなくて残  
 った。か、細かいとですが、御説明願ひます。

それからもう一つ委員長が触れさうだが公園  
費で城山の調査費でございますがこれが二万月上つて  
ある。また新年度も上つてあるようでございますが、  
これは三四年一度地元の方たちが数回にわたって  
里見の復習といたしますが、調査を行なつてあるわけ  
でございますが、金が足りないということで相当館山の  
各部落からはそれ等寄付金をもらつて調査をや  
つてしまふところですが、これも半分の調査費として  
でていない半分開つてある。こういう点、この二点だけ  
とするとお聞かせ願いたいと思います。

・三番（秋生田七郎君）不用額の問題につきさうしては  
かなり細密にわたつて検討したものであります。か  
ただいまの御質問の点については触れておらぬので  
あります。従つてこれの点につきさうしては

委員長より。当局から御答弁願えれば正しく  
答弁が得られると思ひます。そこでその点御了承  
願います。それでたゞいま三四番議員の質問  
に對して。て当局より答弁を願つたと思ひますが。  
建設課長(新井重助君)お答へいたします。決對事業の中に  
賃金が残つておりますが。これは当初計画した通り  
道路改良事業のうち。正木と見物に二カ所設定して  
ございます。それが土地の交渉が済みませんので。執行が不  
可能になりました。裏面にあります通り。東倉井倉  
の土地整備事業に振りかえすところをやります。たゞ  
係上賃金その他において。残額が金にたりません。が  
なお公園のところでございますが。安房水産高校の山岡  
さん。城山城の調査をするというところで。学校生徒その他  
若干の費用も入つたやうなところ。で一万円の繰入金

りまうたうで一万円支払たうでございます

・**三番(松本藤太郎君)** 公園費の調査の費用です

これは館山地区は数万円の金をおいておる。そういう  
ことでありますから 今後調査現場にいくなりして  
予算を有効に使っていただきたい。この大ぜひもお  
願ひいたします。

それから地主関係でもって工事のストップする。これ  
は全市にわたってしばしば起きてゐるようなので予算  
もずかるといふところがあるのでもおぼしいです。これも当局  
の方でもっていき方が無理かあるといふことであればやむ  
を得ませんが、そうでなく地主といひますか、そういう  
人たちは市の仕事であるのだから、より際取れるだけ  
値を安くもらうといふような場合も出てくると思ふ！  
こういうような場合に対して、今後どういう

ふうな対処するの、仕方がないか、ということでは責任が果せば、これになるが、そういう場合において、あまりに無謀でないか、対して、まして、当局の今後の態度、そういうものを一つお聞かせ願いたいと思います。

建設課長（新井重助君）お答えいたします。とり、事業に

いたしても、予算に計上する場合でござい

か、一年前から調査した、そして土地の方も

見通しがついた、ということで、予算に計上するわけで

あります。がい、工事となると、なかなか思うようにいか

ない。特に正木に對して、これは二カ年にわたって

交渉を経まして、やりすゝた、でありますが、おひきなが

った。最後に、替地まで、やっても、どうこうと、ううと、で

それ、失敗に終ります。どうしても、ひきない



という事でございます。

それから今後でございますが、これは国においても  
各県においての事業でも土地の取得というものは  
非常に困難をきたしております。土地収用法を  
用いなければならぬと思っておりますが、しかも三年度  
事業でございます。土地収用法を用いて、四年  
位かかるという現状でございます。私もとった  
し、す—ではござるだけ土地の方と交渉した—す—て  
予算化した—たいと思っております。そういうような事業  
でございます。で、今後地主さんの方で御承諾願え  
れば、そういうような方法でございます。と思っております。

三喜田村専任衛生 今犬丘、神余の間の道路がすぐにござ  
上つておるが、地主負担、土地の人が負担してあるが  
その超過した分を返してあるか、どうか、これをお尋ね

いたします。

建築課長(新井重助君) 大石、神米余線の道路改良工事  
 でございすが、これは初年度におきまして決対事業  
 でありまして地元の負担金をいたたいております。  
 ただ地元の方たちが現金を払うことが骨のおれるとい  
 うことで労力を寄付する三分の一に該当するだけの  
 労力をだしていただいておりますが設定上の単価を  
 用いてそれ以後の賃金を割り出してございまして  
 それを労力何人分というところで出していただいております  
 すが、働く人もございすが働かない人もございする  
 ので労力が低下することで参ります。予想以上の労力  
 がかかっております。その面におきまして三分の一以上  
 の労力かいた場合には郡森に対してまして賃金を  
 支払っております。

三番(田村喜兵衛君)課長さんの説明とくわりました。  
地元で潤って千十数万か十九万金か返るようになった  
おるが、今うぐに地元に戻っていく、もうに聞きましたか  
いかでしようか。

建設課長(新井重助君)金額、合計はちうとわかりませんが  
支払ってございます。そのもとにつきまして道路期成の  
委員長という方がございまして、その人が一が保管して  
ございまして、それでいろいろ保管の方法について疑問のあつた  
というところで三月から会計を置まして、会計の方で  
全部受けてございます。

議長(山本昇君)おわかりました。

認定番号乃至番号以上をもって質疑を打切り  
討論者省略一括して採決いたします。ことに  
御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇老)御異議なしと認めます。よろしくお入り

採決いたします。

認定才一号乃至才四号昭和三四年一度一般会計  
並に特別委員会委員長報告通り認定した  
ます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(山本昇老)御異議なしと認めます。よろしく本案  
は認定されます。

暫時休憩いたします。

二時一〇分

休憩

一時一五分

再開

議長(山本昇君)午後、出席議員数ニハ九、午想の前に  
列、軒読、会議を開き、

日程オシ、これより市長、昭和三六年における施設  
方針並に議案、趣旨説明を求めます。

(市長田村利男君登壇)

市長(田村利男君)本日ここに昭和三六年三月定例市議  
会を招集したとす。昭和三六年年度施政の根幹  
を、予算案及び諸議案の御審議を煩はす事  
といたす。

各派には、長期別、直り、とに御苦勞に存します。  
就ては、この機会に於き、と施政方針並に諸議  
案、提案理由について、御説明申し上げ、併せて  
御挨拶を申し述べたいと存します。

昭和三十五年もようやく終りを告げようとしておるわけであり、過去一年間を顧みうするとき、昭和三十五年度は、内部的にも、また外部的にも誠に多彩な年度であつたと思つてゐます。

年度当初には、まず庁舎の完成による祝典執行と市役所の移転があり、国民年金の実施があり、新市建設計画調整事務の開始があり、国にわたる庁舎の改定があり、都市計画事業による海岸道路の完成、年度となり、国民酒舎の竣工、開設あり、市営住宅継続建築への着手、一年度といたして、更にいろいろ多忙の中に迎えた姉妹都市ベリンハム市長一行の来訪等々、そして多彩かつ重要行事の連続した年度であつたわけであり、議員各位には、常に

小職も御参鞭達御支援くださいます。さて、すんでハ、  
明期内御理に進展してまいり。ますます、当市の  
市勢発展に大きく寄与するところと信じてござい  
ます。ここに、議員各位の御好意に對します。と、  
改めて衷心感謝の意を表わすものであります。  
さて、昭和三十一年度国家予算における大蔵省の  
基本方針をみると、最近のわが国経済は  
三十四年度の著しい発展のあとを受けて、もうやく  
全体的な経済基盤が充実し、各般にわたってその均  
衡も保持し、なほ引続いた順調な拡大傾向をたど  
て、この経済基盤を一層強化し、長期にわたる経  
済の安定成長を期して、国民の所得増進を着実に  
達成し、もって国民生活の向上と雇用を拡大を  
図ること、わが国経済の当面の課題であります。

敗政の健全性を保持する方針の下において  
緊要とされる施策の推進を図ることを基本  
としております。

一方自治省における昭和三十一年度地方  
敗政計画の基本方針については、オ一に  
地方敗政基盤の充実とそ、健全化であり  
オ二に産業全済の発展と国民生活水準に  
対応できるように地方行政の水準向上であ  
り、オ三に後進地域開発の積極的推進とい  
う三点を目標としております。

このような根幹的諸方針が細部の具体的  
には、どのような現われてくるかまだ判然とは  
いたしません。が、当市の行財政方針の根幹  
となるものは、やはりこれら国家施策の基本



方針にそつて進められなければならぬは  
当然でございませう。

ところで本市の最近における財政状況は  
逐次その規模を増大しつつあるものではあり  
ます。全国的平均規模からすれば、まだまだ  
低く昭和三十一年度にあつても、財政の  
躍進的増強は、どうして期待できません。で  
当初予算の編成に際しましては、あくまで  
も財政の健全性を保持しつつ消費税率の  
節減に努力し、行政水準の向上を期して  
教育、産業、交通、環境衛生等を重点に施策  
の推進を図ることを、一たうであります。  
以下これらの諸点について、概略御説明申し  
上げます。まず一般会計にあつては、

オ一長は、この数年來の滞願となつており、  
 し尿処理施設建設をニヶ年間の継続事業  
 として着工するとして、オ一年次支出額は  
 約三千二百万円を予定してあります

完成は昭和三十七年の後期に入ら見込みで  
 あります<sup>が</sup>なるべく早期完成を期して努力し  
 たいと考へております

オニ長は、<sup>いた</sup>ては、消防庁舎の新築計  
 画であります

工事費一千五百万円を計上し、旧市役所庁舎  
 のもとに鉄筋コンクリート二階乃至三階建と  
 する計画で財源は金額市債を充てゑる  
 する方針であります オニ長は産業全庁発展  
 促進のため、これらの総合関連計画として

―て港域整備、道路橋梁整備、農業、肉工  
業及び林産業振興対策等で、まず道路橋  
梁改善補修費一千万円、船形、鑑山、富崎三港  
に係る改修工事負担金及び維持工事費一千万円  
都市計画関係土木費一千二百五十万円、農業  
関係におきましては土地改良事業をはじめ  
国営、路農振興対策等七百九十万円、肉工業振  
興対策として、肉業工会議所への補助金百  
四十五万円を計上し、総額約四千二百万円を投入  
してゆく計画であります。

才田長といたしましては、前年度に引き続き  
教育水準の向上と内容の充実を図つたものと  
あります。教育関係の新規計画といたしまして  
は、一中及び四中の校舎増築、東小学校の講堂

新築、西岬中学校、南天体操場、建設等、主な事業でありまして、これら事業費、約一千六百万円、小中学校教科改訂、その他による、所要全費の増額計上と人件費の自然増等合せまして、教育費総額は七千九百万円を超え、款別予算額、最高位を占めることとなり、もって教育成果の飛躍向上を図ることとなりております。

オミズといたしましては前年度に着手した、市営住宅、通院建築設計画であり、本年度もミズ戸の建設計画で予算は約八百万円を計上しております。

この外に特別会計におきまして、昨年度設計した、鳩山荘の施設拡張計画を計上した、工事費、千二百万円をもちて

百八十坪を増築し環境を整備する。一般と収容能力を拡大し、本市観光発展に寄与しようとする計画であります。

以上が昭和三十一年度における主要施策であります。すが、一般会計の予算総額は三億九千一百万円となり、前年度の当初予算額と比較すると、千四百三十万円の増額となり、約二〇%の伸張率を示すことになりました。しかしながら全国的経済発展の勢いからすれば、まだ弱みや域を以てずいでありまして、財政力増大促進のための諸施策を将来どのように推進してゆくかということが当面の最大課題であると考えられておる次第であります。

次に昭和三十五年予算案についてその概要を申し上げて審議の御参考に供したいと存じます。まずオへの主軸となります。

市税については従来過大見込みとならぬようなるべく低目に予算化する方法をとつてまいつたのであります。が本年度はこのような消極性を排し、まして当初予算において年間の徴収目標を確立し、その目標額を予算計上することにより、まして自主財源の確保を図るということにいたしたのであります。本年度の徴収目標は調定額に対して、まして九十一億を見込み、一億五千七百二十万を計上したわけでございます。これは昭和三十五年度の決算見込額よりも約六百万の自然増が見込まれる結果からでありまして

十分に収納達成し得る見通しであります。

次に地方交付税は国の計画によりますと相当大巾な増額を見込んでおりますがその配分や算定に關する内容が具体化しておりません上に当市の場合若干の人口減等と關係もありまして大巾な伸びは期待できなうと考えられますが前年度の実績を基礎に八千万円を計上したてであります。次に公営企業及び財産収入におきましては、二年間競輪収入が一千万円をこえておりますがこれも開催日程と關係し天候に左右される面が非常に大きいので一応前年度と同額を七百万円を計上し財産収入を九千万円と合せまして七百九十五万円といたしました。

次に国庫支出金と県支出金にあつては





一千六百七十万円 寄附金九百七十万円 雑収入  
三百七十七万円を計上——して才入合計三億九千  
二百九十万円となりました。

歳出につきましては、まず議会費一千四百七十万円  
で前年度当初予算額に比べ——して約三百四十  
万円、増額となりますが、大部分が人件費の増加  
分であります。次に市役所費は七千四百三十万円が  
才出総額の十九%に当り、約一千万円の増額で  
あります。が、このうち八百七十万円が人件費の増額  
であります。

次に消防費は、三千七百九十二万円が才出総額  
の約十%に当ります。本年度は消防庁令を  
全額市債充当一千五百万円をもって実施する

計画でこれと併行いたして機械器具の整備と水利施設の増強を引続き促進する計画でこれらに要する全費約三百二十万圓を計上しております。

土木費におきましては、三千五百八十七万圓を計上いたしましたが、その内訳といたしましては、道路橋梁等の維持改修関係約一千万圓、船舶港をほつめ果営三港の改築工事負担金及び維持工事費約一千万圓、水道維持全費二百二十六万圓、街灯関係費五十四万圓、都市計画街路工事費一千万圓、水路等改良工事費百二十万圓、公園整備事業費百三十万圓となっております。

次に教育費は、七千九百八万圓で、お出願願の約二十%を占めることとなり、科目別

最高予算額となつたのであります。これは  
市等学校・幼稚園をはじめ人件費の自然増  
加約五百七十万円、校舎等増築事業費一千  
六百万円、外に義務教育における教育課程  
改訂等による需用費、増額等を全面的に  
織込みました結果であります。なお最近全国  
的な問題といつて青少年対策というものが  
急遽意識されてゐるに際して本市においては  
幸いこれらの事件は発生しておりませんけれども  
本年度特に青少年健全育成関係費といたしまして  
二分の一果實補助により三千六万円を計上し  
社会教育活動における一つの重点施策として  
計画してあります。かくつたとして本市教育  
の全分野にわたり効果成果の向上を図ることと

いたるあります。

次に社会及び労働施設費は、六千七百五十三万円で構成率一七%と、これまた躍進的予算額となりましたが、前年度の当初予算額に對してあります。増加額約一千六百八十万円を主たるものといたしましては、基準改訂等による生活保護費の増加額八百万円、国民年金取扱事務費の増加額約二百万円、失業対策事業費の当科目へ繰入による増額分四百七十万円等であります。

次に保健衛生費は、四千二十万円で前年度当初予算額より倍に近い予算額となりましたが、これは一處処理場建設費の本年度支出額約三千二百万円の計画でありまして、これと併行して環境衛生部門の充実を期して、所要全費を増額

計上することといたしまして、たゞ、これら、関係費  
が約五百八十万円に達することになります。

このほか、暗核予防費八十万円、隔宵病舎費七十  
万円、犬糞場全費五十八万円等が主たる全費  
であります。次に産業全費は一千八百十万円で

前年度対比は約三百十万円の増額であります。  
郡別にみますと、一千二百七万円の農業関係費  
でございます。水稻を主とする病虫予防除費、

約百万円、園芸振興対策費約百四十万円、酪農  
振興対策費六十六万円、土地改良事業費約五百  
十多万円を計上しまして、農業全費の近代化促  
進を図ることにいたしました。

前工業関係費は百四十五万円を計上いたしま  
した。これは、中小企業育成の基盤となつて

商工会議所に対し、運営費補助金  
五十五万円を引續ぎ交付する計画で、本年は更に市内の小規模事業の改善普及費設置計画による助成金五十五万円を計上する。計五十五万円を商工会議所に補助する。これにより、商工業者の育成発展に寄与する計画と見られてゐる。

水産関係におきましては、土木費に計上される港湾整備費一千万円のほか、本項では振興助成関係費において前年度予算額を下回らぬよう配慮され、百三十四万円を計上した。観光費におきましては、海岸施設の整備を主眼とし、四十万円の増額、百七十五万円をもち、諸施設の

維持管理に万金を期したいと考えておる次第であります。

敗産費は市有敗産の管理費でございます。二百二十万圓を要するものであります。このうち百五十万圓は千葉銀行から買収したもので、現在図書館となっております。建物、年賦支払額であります。統計調査費においては統計年鑑の作成費を含めると約四十四万圓を計上したものであります。選挙費におきましては本年度に予定される選挙にかかっていますので、全般的な選挙費百三十六万圓となっております。

次に公債費は一千四百一十萬圓で前年度よりも約百七十五万圓の増額となります。これは利子で百四十万圓、元金償還額で約三十万圓の増加となっております。

あります。この外に一時借入金、利子といたしま  
して四十六万円を計上し、一万七千場分における  
資金操作に備えたものであります。

最後に諸支払金は七百三十九万円、前年度  
の当初予算額より二百三十二万円の減額と  
なっております。これは市税調査費におきまして

昨年度は固定資産評価審査費の七十万円が  
本年度不要となり、特別会計休養施設への繰出  
金の減額の九十万円、庁舎完成記念祝典関係  
費百八十万円が本年度不要となる関係であります。  
本年度は市内勤労者対策といたしまして毎年実  
施してまいりました交付金を八十万円に増額した  
ほか、労働金庫預託金三十万円の増額した  
こと、勤労者の福祉厚生資金の融資に寄与する



計画であります。

以上すばかに 予備費三百万円をりえすべく出  
総額は 三億九千二百万円となり 総括的に  
これを全費別にみますと 人件費が約一億四千  
百万円で総額の三十分の一 物件費が約五千五百万  
円 万円で総額の約四分の一 扶助費及び補助費等  
が五千七百万円で総額の約五分の一 建設事業  
費が一億九百万円で総額の約二分の一となり  
す。 維持補修費その他が約三千万円が総額  
の約七割とすうでございます。

これによりても 明らかなように 僅か四億にも  
現にない予算規模におきまして 約一億一千万円  
構成比が三十三%に なんなんとする 額を達  
設事業に投入してゆくとする 積極的努力

は大に誘引してまいり、確信しておる次第  
でありませう。なお特別会計につきまして概界  
申し上げますと

まず第一に公益質屋は五百六十二万円では  
前年度当初予算額と同様でございます  
次に国民健康保険は六千八百四十三万円  
前年度当初予算額よりも約一千六百三万円  
の増額となりませう。これは療養給付費の  
増額が大部分でございます。約一千四百六十  
万円人件費が約一百万円の増額となつて  
おります。国保の財政事情といたしまして  
は、将来国が大きな財源措置がなされ  
ない限りござります。前途多難となるかと  
考えられます。

次にと畜場会計であります。昭和三十一年  
度八十七万円で前年度より更に若干の減額  
となります。最近と畜の減少が目立っており  
ましてその影響から本年度も増収は期待  
できません。と思われています。

次に西岬地区に設置した市道  
が五十八万円であります。大体この額が  
通常の規模となるものと考えております。

最後に休養施設鳩山荘であります。昨年  
七月あけたばかりに開設したもので、予想  
以上に業績はよく十分に独立採算が見込  
みを得られています。ところで本年度更に百八十坪ほど  
増築を計画しております。工事費の全額  
市債を充当し、約一千三百万円を計上する

これといたしまして、通常の営業費との  
合計は約一千二百万円となりました。

次に今回提出した一、諸議案につきま  
して概算申上げたいと存じます。

今回、議案は予算計上額と関連した  
関係条例の改正と継続費起債及び財産に  
関します。すべて予算関連事項となりますが、

まず議案第三号は市庁舎建設事業費

継続第期及び支払方法書の内容の変更

であります。昭和三十五年度の財源中市債

一千万円となっております。たか一千五百万円

と確定した一、たのびのように変更する

だけのものがあります。

議案第十号の寄附収受の件は、那古に

あります。修式館の建物を市に寄附する旨申出でが、ありまして、たゞこれを收受しようとするものであります。

議案オ十四号から十九号までは、非常勤の特別職中、その報酬額が日額又は年額で規定されてゐるものについて、昭和三十一年度分からそれだけ若干の引上げを——たいと考へますので、関係条項をそのように改正する条例案を、いざいます。

議案オ<sup>ニ</sup>十五号は、幼稚園保育料を従前より四百円を六百円に改める条例改正案であります。議案オ<sup>ニ</sup>十六号は、青年学級授業料の三百円を三百円に改正しようとするものであります。

次に議案オ<sup>ニ</sup>十七号は、国民健康保険条例に

おきす——と 助産 葬祭の交付金五百万を  
それれ千円に引上げるのと 保険料の最  
高限度額三万円を四万円に改めること  
を併でありす——と 又外に附則で規定され  
ております——と 法律改正に伴います——と 全通  
措置に関する事項が昭和三十一年度から  
必要がなくなりす——と これを改正削除する  
ものであります。

議案オニニ号は 公営住宅法の改正に伴な  
います——と 当市市営住宅の管理条例を全支  
改正し——と するものであります——と 内容的には  
従前の規定よりも実質的住宅困難者を  
積極的に救済——と ゆう——と という面が強化される  
ものとあります。

議案オニ十四号は市職員ノ定数条例ノ一部  
改正であります。内容は教育委員会におき  
まして指導主事一名を増員する。改正案  
であります。

議案オニ十五号は福祉事務所ノ生活保護  
担当職員と鳩山左勤務職員に付します  
特殊勤務手当の規定を追加するためノ条例  
改正案であります。

議案オニ十六号は市職員ノ退職手当条例  
ノ一部改正であります。これは今回改正され  
た失業保険法との関係であります。失業  
保険に加入する必要があるにすするため  
必要規定を追加する改正案であります。  
議案オニ十七号から三十一号までは、罹災救助

資金 北条振興財産 基本財産 学校基本  
 財産と四種類の財産がすべて昭和十年代に  
 おいてなされたもので現在、全額執行力下におい  
 ては、その規模があまりにも過小で令細で  
 本来の目的には全く役立たず 意味のないもの  
 とするところから、これら各目を廃止し  
 すべてこのような方途を総括しております  
 ところで、財政調整積立金に繰入れることにより  
 すべて運用一元化をはかりたいと存する  
 ものであります

議案オ三十一号は、一、承処理施設建設事業  
 を二ヶ年の継続事業とすることにつきまして  
 年度別支出額等の決定をしようとするもので  
 あります。



議案才三十二号及び三十三号は一般会計及び  
休養施設におきましてそれかれ通債事業に  
充当いたします。市債の事業別最高限度等  
を定めるものでございます。

次に議案才三十四号から三十九号までは昭和三十  
年度予算案であります。これに關しまして  
は当初に申し上げましたとおりでございます。  
議案才四十号は昭和三十年度会計期間中に  
現金繰り上げ係上一時的に借入いたします場  
合の借入金の限度額をあらかじめ定めておきう  
とするものであります。

議案才四十一号から四十四号までは昭和三十五年度  
会計の最終的追加更生予算であります。

一般会計におきまして約四百万円、公益貨屋

におさす——では、才入不足予定額七十万円を  
一般会計から繰入れによって賄うよう才入の  
更生を行ない、国民健康保険におさす——て  
約百八十万円、追加となり——て簡易水道  
は総額において増減はございませんで内容の  
更生でございます。

議案才四十五号は——仮処施設の設置条  
例であります。これは地方自治法の規定に基  
づき——て管造物の設置は条例で定める  
ということになっておりますので、そのように措置  
いたします。

最後に議案才四十六号といた——て患者  
輸送用自動車購入の件であります。これは  
現在厚生課におさす——ていんかい運搬車を

予防接種その他予防業務に使用せざるを得ないために相当支障が生じてまいりますので、この際患者輸送車として簡単な中古車を購入いたしまして、平常は積極的に衛生部内の諸行事に利用することとし、予防業務その他関連事務の円滑化を図りたいと存するものであります。以上で本定例市議会に提案いたします。案件につきまして、概要の御説明を終わります。なお詳細につきましては、御質問にたいして、お答え申上げたいと存します。

何卒慎重御審議の上、御可決あらんことを、お願いいたします。御挨拶といたします。

議長（山本昇君）以上で市長の施設方針並びに議案の提案理由の説明を終わります。

なつたに、その説明があり、その施設方針並にその他  
一般行政に對します。通告質問はお手元に配付の  
日程表に従ひ、一週に行ひたいと思ひます。  
そこで通告質問のその方法はお手元に配付した  
す。その用紙に質問の要旨を書き、一四日  
正午まで議会事務局まで御提出のほいをお願い  
申し上げます。  
暫時休憩いたします。

一時五〇分 休憩

二時〇〇分 再開

議長（山本昇君）休憩前に引き続き会議を開き  
ます。日程第四議案より一歩を上程いたします。

(書記朗読)

議案オニ号 館山市庁舎建設事業継続年期  
及び支出方法書の變更について

総務課長(山口実君) 議案オニ号について御説明申す  
上げます。館山市庁舎建設事業喫越一事業費  
といたしまして、昭和三三年度より昭和三五年度に  
一億六百五十万円の支出の予定をもって議決を願った  
のでございますが、昭和三五年度におきまして財源  
の内訳におきまして最初一千万予定しておったのが  
千五百万に増加されたのでございます。それに従って  
一般財源を減額しようとするものでございます。

議長(山本昇君) 議案オニ号討論省略原案通り決定  
して、今に御異議ございませんか

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長（山本昇君）御異議ナシと認めます。よって本案は

原案通り決定した。――

・議長（山本 昇君）

統制日程第五議案第三号を上程いたします。

（書記朗読）

議案三三号

安房修武館建物並びに

附属物件寄付収受について

・総務課長（山口 実君）

議案三三号について御説明申し上げます。

安房修武館というのはどんなものであるか一応御説明申し上げます。修武館は昭和十六年に皇紀二千六百年の記念事業といたしまして地元の有志の方々が中心となりまして有識者の賛同を得まして先生の剣道場を譲り受けましてこの議案にある場所に移転されたものでございます。

この建物を別紙寄付申込書によりまして二月八日

修武館長の岩田好雄氏より申し出がございまして、  
のでこれを市の財産として寄付に入れようとするもの  
でございます。

・三番（飯田義男君）

結構なことでございますが、市は寄付收受をいたしました  
その後におりくどのようなに修武館を運営なさる  
いかれるか、これに対する御説明願いたい。

・総務課長（山口実君）

今後この財産については、市の教育委員会の所管と  
して管理いたしまして、那古、船形地区の公民館運  
の場として広く活用し合せて武道の修練所に  
いたしたつもりでございます。

・議長（山本昇君）

議案三三号討論者略、原案通り決定いたします。



御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(山本昇君)

御異議なしと認めます。よろず本案は原案通り決定いたします。

・議長(山本昇君)

続つて日程第六議案第二四号<sup>第</sup>至第十九号同一格上程いたします。

(書記朗読)

議案第二四号 非常勤の特別取の取員に係る報酬<sup>金</sup>及び費用弁償に関する条例の一部を

改正する条例の制定についで<sup>第</sup>附帯

議案第五号

消防団条例の一部を改正する条例の

制定について

議案第二六号 館山市畜産奨励委員設置条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二七号 館山市公民館条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二八号 館山市図書館条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二九号 館山市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定について

・秘書課長（山谷潤組君）

議案第三〇号について御説明申し上げます。

これは非常勤の特別取の職員に係わる報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正するのでございまして、先般二日の市会におきまして、自若法で規定されてあり

ますので委員の報酬の増額をいたしまして関係上  
その他の非常勤の特別払もそれに準じましてある程度  
の増額をいたしてこれを新年度施行いたしたく提案した  
した次第でございます。

なおこの議案につきましては附則の方を落としていただく  
ただいま訂正機をお願いいたします。

この議案の最後の方に附則「この条例は昭和三十四年四月  
一日から施行する」というふうに御記入願います。

議長（山本昇君）

議案四号 至第十九号一括討論者略いたします。  
原案通り決定いたします。御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）

議案異議なしと認めます。よろしく原案通り決定

ソタ—マ—ト。

議長（山本昇君）

続々日程第七議案第三号及び三号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第三号 幼稚園保育料徴収条例の一部を

改正する条例の制定について

議案第三号 青年学級授業料徴収条例の一部を

改正する条例の制定について

・教育長（上藤和平君）

本件は幼稚園の保育料の値上げと青年学級の  
授業料値上げの関係でございますが、提案理由を  
申—上げます。

幼稚園につきましては、三四年度の教育予算におき  
て、小学校の子供の一人当りの市費千四百八十七円、

それに対して、幼稚園の子供の一人当り市費が  
四千七百円、千五百八十五円のオーバー、こういうことにな  
っております。

教育費の各年度の決算におき、これをみますと

三年度は三百円の月謝で市費の持出が三百五十円、  
こういう数字になっております。

次に三年度やはり三百円の月謝で市費持出が  
三百四十五円七千円、約三十万の増額になっております。

三年度におきましては、こういう結果からみま  
す。百円の値上げを行って保育料が四百円になったの  
でございます。三百八十八万四千円の市費持出で

さらに四千何万円のオーバー、こういうことになって  
います。実は三年度の決算審査特別委員会におきま  
して幼稚園の独立採算制という現われが、ない、やが

こういう御注意を受けてますので以上のことがらを考慮に入れます。次の様な理由で六百円としたい。こういうものでございます。それは根本方針と申しますか、根本的な考え方といたしまして義務教育をあくまで優先したい。幼稚園をできるだけ独立採算に近づけた。こういうわけわけの考え方でございます。

三六年度の人件費をみますと幼稚園が六つございましてその職員が三名、人件費の自然増が百七十七万七千円、こういう数字がでてるのでございます。これをカバーするには園児の現在教八六五人でございますがこれも今後の子供の趨勢を考えますと漸減の傾向にございしますので、これは大変に困ったことだと思っております。

この八六五人を適園したとしても人件費をカバーするには二百円増しとせんと、こういう結論に達したわけでございます。なお二百円のアップを認められますならば市の持出しが三百三十八千円、こういうことになりまして百円アップしました。三年度の決算当時に相当するこういうわけでございます。

なお九重の保育園では九百八十円であり、これは最高でございますが、館野が市では一番位くても八百四十円又私立の保育園におきましては最高千二百六十円といった様なことも勘案したわけでございます。

以上で幼稚園の方を終わります。

次に青年学級の事を申し上げますが、青年学級は通年制といたしまして豊后、神余、西岬、この三つが開設されてるわけでございますが、三年度の三つの

通年制の子供が七人ございまして、これに三六年度まで  
 追加で三六年度まで、三六年度まで、三六年度まで、  
 大体五〇人位になるのではないか、これは決定にやありま  
 せんが、募集でございまして、西岬方面におきましては  
 一人もいないといった様な現状でございまして、

そこで、これの人員費、手当から月謝を差し引きます  
 た市の持出しが大体四十七万六千四百円となるよう  
 な予定でございまして、これを五〇人の子供で割  
 ってみますと、大体生徒一人に対して九千五百三十  
 円と多額の費用を要するわけでございまして、  
 この際、四百円アップしたい、こういうものでございまして、

。三四番（飯田義男君）

議案第二〇号の幼稚園の値上げでございまして、  
 四百円に対して五割の月謝の値上げということは



大き過ぎるのではないか、今説明を聞きまして相当の赤字がでてゐるということばかりですけれども現地の母親の声を聞いたときに六百円という数字は非常に大きな値上りであつて負担が大きいのだ、単に月謝ばかりでなく幼稚園に上るために一月千円以上のいろいろな経費が必要である、これでは幼稚園にはやれない。

家で菓子でも、おやつを作らなければ遊ぶからその方がいいのだという傾向がでて参りまして地区によつては相当減少してゐる。こういう状態でございます。

従つて今教育長さんが六百円に上つた場合には三年度の三百三十万の赤字の線を食ひ止めることばできるだらうという計算を立たせるのも当初予定をしてゐた幼稚園の園児の数よりか實際にふたとあけてみたら教員が少なかった。そのもかかる経費が

非常に大きいとした場合に月謝は上げますけれども  
 実際の赤字は依然として四百万以上になったという様  
 な事態が起こりはないか、こういう危機をもつて  
 あるわけではございませうが、その点をお伺いしたい。  
 それから五割という値上げは極端な値上げでござい  
 ます。もうできるなら、その甲をとった位なら私は一応  
 甲一聞きができるんじゃないか、こうも考えてあり  
 ます。これは単なる私見か、いれませんが、一かし  
 五割の値上げというものはそうくな面で障害が、  
 できはせんか、これに對して教育長さんの御見解  
 をお伺いしたいと思つてます。

・教育長（工藤和平君）

ただいまの御質問私もそう思う懸念を若干もち  
 おりますが、又現端からそういうふうな現象に

なるという声は聞かないのでございまして先ほど申し  
ました様に何といたしまして議務教育に重点を  
置きたい、こういう考えから多少無理があつた様にも  
思ひますけれどもこの際二百円の増額ということに踏み  
切つたわけでございます。

子供の教り減るということについては今後の問題に  
なるかと思ひますが今のところそういう話を聞い  
ていないというところでございまして。

・三番（黒川佐太郎君）

私も飯田議員と考え方を同じくする者でござい  
ますが例を富崎に取りますると、富崎は村立で  
作つたのであります。これは教育そのものに重点を  
置いたという事は間違ひなものでござい、それと同時に  
家庭の諸君が働くために又子供の買食、この消費

を踏ぐためにこういう意味で父兄には負担はかけない  
 とういうことで村で作つてやった。従つて現在でも  
 實心で幼稚園に子供をあずけて、そうして決して  
 もぐりにくいとか、山に木を取りにくいとか、こういう  
 実情であります。

もちろん理想は独立採算であります。ところが、  
 一かし実態をよく把握すべき必要があろうかと  
 思つます。そういう様な実情にあるものと見て

五割の値上げをして、けなソ子供ができた。

こういう増分に教育とソうもりの最も大事である

機均等。門戸解放とういことが無視されること

になりはなソか。これを真受うるのがあります。

極端にいうなれば貧乏人の子供は幼稚園にけな  
 金持ちだけがける。これは明治時代の幼稚園で

あゝ現今のそれの姿ではなからうと思ふのが  
あります。こゝに意味にあらゝ五割の値上げ  
と云ふことは賛成しかねるうであります。

どうも重要な要件でありますので、一先委員会に  
付託して慎重審議を願ふたいと思ふのであります。

ニ。番（萩生口二郎君）

同僚議員の御意見ごもともと思ふのであります。が  
私は基本的考えをとして従来市営の幼稚園を乱立と  
いうのが、諸弊がありますればかならずよく建てた  
ところと云ふに私は根本的に考え直さなければならぬ  
点があるのではないかと思ひます。

ただ学校教育長が甲一たつゆゑる義務教育重点  
これは当然貫ねなければならぬと私は確信して  
おります。従つて結果的にみて現在の

幼稚園の一人当り市費支出が四百円をオーバーして  
ある、小学校に対しては千四百円にみたないということと  
換言すれば、もっと私は小・中学校等の義務教育と  
いうものに重点を置いて少くとも P・T・A その他に  
対して負担をいさるといふ現象をすくやかに解消する  
ことが必要ではないか、かように思うのであります。  
そういう観点から原案に賛成したまいます。

・議長（山本昇君）

ただいま質疑中ですから質疑を願います。

討論ではございませんから。

・四番（飯田義男君）

もう一つ教育長さんにお伺いしたのです。先ほど  
申し上げた様に六百円に上げたけれども依然として  
初めの三百三十万の赤字では止まらなかった。

これ以上にだんだんふえていく傾向ばかりにわたる場合に又八百円に上げ千円に上げるといふ方針が幼稚園を運営なさる考えがあるかないか、あるいはどうなつた場合は別な何らかの手段によつて市費の持出しを多くするとか、何か方策があるかこの点についてお伺ひしたいと思ひます。

・教育長(工藤和平君)

先ほど教育の機会均等というお話がござりましたが、義務教育ではございせんけれども義務教育に準ずる。こういう考えをもちております。

従つて今後飯田議員のお考えのような事態が発生しても慎重に検討して値上げをするか、ないか考えてみたいと思ひます。今すぐお答えはできないと思ひます。

・西 香 (飯田義男君)

それでは基本的にはとにかく現在の幼稚園という  
物をたとえ人員が相当少なくなっても止統合はしない  
ということなんでしょうか。

・教育長 (工藤和平君)

そのことにつきましては、そのとき的情勢に心して慎重に  
研究すべき問題だと思っておりますのでやはり即答は  
できかねる問題でございます。

・西 香 (萩生田七郎君)

教育長さんにお伺いしますが、今の幼児教育の重要  
性は私も承知しておりますのでありますが、ただ実際問  
題として今飯田議員の発言されたごとく、いわゆる  
農家の子弟が非常に多いため保育園にお遊び  
すべし、性質の子供は幼稚園にかまわしてやるというふうな



「実態もあるのではなにかと思うのがあります。いわゆる  
厚生省所管外による保育園制度の拡充、強化問題  
と今の文部省の幼稚園の問題、こういうものと

内容的に実際に現在扱っている子供たちを内容的  
的に検討して教学としてデーターをだしてあります。ハ  
イ、うか

教育長（工藤和平君）

まだ所管してあります

二〇番（萩生田大郎君）

幼児教育が大事だとたゞより以上に私にいわしめれば  
義務教育というのが大切だということがいける。

義務教育は徹底的な機会均等、ついで第二次的に  
幼稚園あるいは高等学校に力を入れるというのが常  
識だと思っております。

従つて現在の幼稚園も必要でありまして、  
孤児救済も必要かもしれない、それも館山市が  
現在行なつてゐる保育園この根本的な内容、性質  
というものと、父兄の要望というものと教育重点が  
あるは保育して貰うというのが重点か、

又、現在保育園と幼稚園がごっちゃになつてゐる  
何々だといふといふない、こういうことを十分検討して  
データーを作ることが必要であると思つてゐるが  
これをお願いしておきます。

・ 参事 (松本 藤太郎 君)

この保育園と幼稚園との関係、今も参事議員が申  
されてゐるが、實際その通りその地域に住んでゐる  
住民によつては非常なまでにアン・バランスがある  
これは事実であります。又この場合幼稚園です。

市立の幼稚園というものは教は少いかもいれませんが  
私は考え方が違つて市立の幼稚園をもつてゐるという  
ことは館山市のつうの誇りヒーターのつうのはなつか。

そういう考えから又幼稚園教育は義務教育に  
準ずるという考えがたときに今こゝで五割の増額  
ということになつと私には考えられない。たゞいま教育  
長への御説明ですと義務教育に重点を置きたと  
いうが今まで幼稚園の一人一円幾らかの持出しが多分から  
増額をするのだ。こういうことなんですか持出しが  
多くてもかまわない。こういう考えをもつてゐる。

で義務教育に重点を置きたいというが、このまま  
いつたときは義務教育に重点を寄せがあるか。

今日まであったりか。その点とさうにこれを上げた場合  
に義務教育にどういった様なプラスがでてくるのか

その点、以上二点について教えてもらいたい。

・教育長（土藤和平君）

義務教育費と義務教育費ではないというふうな関連は、もちろん考えられます。その点でただその際に市の財政規模ということも根本的な問題であろうかと思っております。それにくわかに高遠な理想をもつてその理想を全部達成しようと思っても市の財政が許さぬ場合にはこれは不可能なわけでありましてその場合にあるつく内わければ、できるだけ義務教育の重点施策を施さなければならない。また、幼稚園あるいは高等学校にいたるような費用がかかる場合、それだけに義務教育がマイナスになる。ここに一つ、甲一上げることはデーターはございせんが概念的にそういうことばあるわけでございます。そして従って、できるだけ義務教育でないものなり

得に人件費の様なものについては、考慮を要するところであろう  
な考え方でございします。

### 三番（黒川佐太郎君）

幼稚園の問題で義務教育が義務になるというふうな  
お話でございますが、それは予算の面ではあるはそういう  
ことかといえるかと思ふ次第。だバーもし教育というものは  
予算ばかりではないと思ふ。

義務教育に準ずる幼稚園でしかりやった場合には  
幼稚園から小学校に上った場合に非常にその効果  
が顕著であるというこを認めますればあなバーマイナ  
スになる。こは私は考へない。ほお又市の方針は富崎  
あたりは早くから実施してあります。神戸の  
幼稚園は市になつてから、編入されてからでござんと思ふ  
す。それだとすれば、それ後のことはあらうのじぬ市も

覚悟の上で設立したのだから、であれば決してこれに  
まゝ子扱ひにやることはない

もちろん独立採算でありまゝ、財政の面から  
いいますれば、だがこうして館山市が親心を作ら  
ざるというところに、館山幼稚園の存在の意義があるの  
はないか。私はこう考えるのであります。はいか。

・教育長(工藤和平君)。

お話し通りでございますが、独立採算と申す  
もの、金額独立させる。意思はございせん、でござい  
た近づくたい。従つて、市費も相当だつてある  
わけでございます。文字通りの独立採算は、ない。

・三三番(小口幸三君)。

動議を提出いたします。ただ、議題とばかり  
する議案第二号、第三号議案は、慎重に

いまだ――所屬の委員会において審議をいたしたと  
思いますので、この辺で質疑を打ち切り直ちに文教民  
生委員会に付託されますので――

議会運営協議会を代表して動議を提出いたします。

・三番（鈴木市蔵君）

三番君の動議に賛成いたします。

・議長（山本昇君）

ただいまの動議は議案の中、三番を一つして文教  
民生委員会に付託されたということでありまう。  
おはかりいたします。尚議案を一つして所屬の  
委員会に付託することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり」）

・議長（山本昇君）

御異議なしと認めます。よって文教民生委員会

に付託することにいたします。

。議長（山本昇君）

続て日程第八議案第三号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第三号

館山市国民健康保険条例の  
一部を改正する条例の制定について

。保険課長（神作啓次郎君）

六条甲 七条甲 被保険者が出産死亡したとき支給する助産費・葬祭費一件当り支給額 五百円を千円に  
それこれ増額するよう改正しようとするものであります  
三条中 保険料り賦課額の増高に伴い一世帯当り  
最高限度額賦課額三万円を四万円に改定し、負担の  
均衡をはらうとするものでございます。



附則第五項から第七項までを削る。附則第五項の規定は当時国民健康保険の被保険者の資格にかつての暫定的な特例として昭和三六年三月三十一日までの間旧国民健康保険法に基く条例に規定されてゐた被保険者を従前通り適用する旨が定められてありましてこの規定を廃止しうとするものであります。

オ六項の規定は療養給付の範囲の特例として當時は当分の間病院または診療所に収容した場合の給食及び寢具設備の給付は行わない旨規定してありまして但し現行国民健康保険の趣旨からこの条例規定を廃止し來たる四月一日から給食寢具設備の給付を実施しうとするものであります。

オ七項の規定は国保の米実施の市町村からの転入者に対する給付は暫定的な特例として昭和三六年

三月三月までの間は新に本市の住民となる保険者の  
資格を取得した者に對して住民となつたときから

六ヶ月間限り住民となる前に發した入院看護

移送に於ての給付は行わない旨規定してありましたが  
現行によりこれを廃止しようとするものがあります。

・三六番(嶋貫壯作君)

三条甲というのは保険料の制限額ですね

今まで三月以上納めるべき人で三月以内に止められて  
その人が何人ありましたか。

・保険課長(神作啓次郎君)

二八世帯でございます。

・議長(山本昇君)

議案第三号討論者略原案通り決定いたしますが  
御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）

御異議なしと認めます。よろしく本案は原案通り決定いたしました。

議長（山本昇君）

続々と日程九議案も

議案も

館山市市営住宅管理条例の全部

を改正する条例の制定について

議長（山本昇君）

本議案の朗読の省略という意見がござりまするが省略してよろうござりまする。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）

朗読を省略して直ちに説明を求めます。

福祉事務所長（長谷川 広裕君）

御説明甲—上げます。なお御審議の参考資料  
として、青い印刷で館山市営住宅管理条例  
新旧比較表というものを配付してあると思っております。  
のでそれを御参考に願います。

これは昨年改正されました公営住宅法に伴って  
引用条文等を全文にわたりました修正したもので  
ございます。新しく条文ヒート挿入したものです。  
のについて詳細に甲—上げたと思います。

新条例の二条は旧条例の二条に該当するものが表現  
の改正のみでございますので省略いたします。

二条も大体同じでございますが、一、具体的規定を  
いたしました。それは四にあります収入の欄でございます。  
それは今までの金額を銘記しなかつたのでございまして

公営住宅法の改正によりまして全額を儲記いたしまして、これはどういふことかと申しますと、一種住宅か二種住宅の區別がありまして、それに基いてどういふ収入で計算をした額以上の者あるは以下の者をこの住宅に収容するのだ。こういう収入の計算をする場合の規定でござります。

お三条は前条例と大した変わりはありませんが、新に一として広報ニヒて新聞という字句を甲にはさみまして、これは広報活動が行われておりますので市の広報に公募をするということとでそれによつて市民全部に知らせる。こういうこととでござります。

四条は若干変わっております。これは市営住宅が公営住宅法から甲いまして公募をすることとを建前としておるわけとでござります。特別にこの四条に

かかげました一から六の場合におそは公暮をいふで市長で入居を許可することと認めた、こういう例外規定でござります。

五条は旧条制と大した差はござらんが、ただこの中が一項に「現に同居」又は同居しようとする親族ということをかかげております。他人が同居しようとするわけな、いわゆる六親等内の親族という場合でないと認められない。こういう規定になっております。六条につきまゝは旧条制と大した変わりはないが、世帯入居の申込書これと皆さす旨にまめとあります。が、こういう申込書によって処理する。こういう規定でござります。

七条の入居者の逆若この四項、五項、それに規定をいたしまゝたもうが、四項が入居者を逆若するときに

入居逆考委員会の意見を聞いて市長が定めるのだ。こういう条項を新に追加いたしました。現実にはこれは行われていたのであります。すが現定として銘記したということがあります。

なお逆考委員会はこの条例が通りませんので案です。大體六人の委員をもって構成しようとするものでございます。

五項は公募の特別として認めております。その中に對してはこういう様なものを優先的に考えてほしい。こういう規定であります。母子家庭あるいは引揚者等を中心に考えて収入の少ない者。こういう者にも特別に市営住宅を割りあてまして優先的に入居させてほしい。こういう例外規定をかかげたものでございます。

わゝる条が新に挿入したものでござります。

これは現実にはやゝついたこととござりますが、親と子が住んでいて親が死んで子が世帯主として住む  
 こういう場合の規定でござります。こゝにいう場合  
 には承認の手続きをとつてもらいたい。こういう規定で  
 ござります。二条が新しく入れたもので入居の使用  
 期間を制限したております。前は三年間で  
 更新していくというところでしたが、これを五年  
 というふうにする年長くしたわけとござります。  
 三条にまゝするは旧条例と表現等の改正のみでござ  
 りますので省略したてます。

三条では特にこの中が減免の基準を別に市長が  
 定めるといい。こういう具体的な明示をいたしまし  
 た。免状的な基準は施行細則によつて定め



いまだい、こう考えております。  
二五條の案費は年々少く、目下は細く、あたりの  
二五條、二五條は大した変わりはありませんが、それを  
二五日に延ばしたわけです。

二六條は、前の規定で八条あるのは三條に分けて、  
ありましたものを、これを新に独立の条項にいたした  
ものでござります。教金は従前通り三月分  
それを二七條に新に追加したものでござります。が  
この教金から生れる利益というものは、住宅法から  
申しまして教金を提携したものに差し上げながら  
共同用の施設があった場合には、そういうものに使  
つていく、こういう規定でござります。

二八條、二九條は大きな変わりはありません。

三〇條に一部改正をいたした点がござります。これは  
後半の方に入っております。市長の承認を得た

—— 館 山 市 議 会

ときに市営住宅法の趣旨から申しますと、ちよつとはずれてゐるようでございますが、例えば軒先を共用の風名、物置きにするとか、こういう場合が予想されるわけでござります。

そういうものから名義人と違ふという場合も考えられますので、こういう規定を挿入をいたしたわけでござります。三條 三條は旧条例と表現等の改正でございますので省略をいたします。

而条新に挿入したものですが、借りておりまして五日以上借りてゐる家を使わない、こういう場合が時々あるのです。そういうときに管理上から申しまして、差一つかえがござりますので届出をしてもらいたい。こういうこととござります。

五條新に挿入したものですが、これは先般改正され

ました、公営住宅法から申しまして金額を明示して頂く  
こういうことを取った為に入れたわけですよ。

住宅を借りまして五ヶ年ごとに更新していくということ  
になると家賃の方は一応そのまゝをいくということも

住宅法の建前からいって、どうかということでも三年ごとに収  
入を調査いたしまして、それに合わせていく収入がうんと  
ある人は、住宅から出ていったら、他の家屋を見つけて  
いただく。こういう趣旨の規定でございます。

これはもう一種住宅によりましては三ヶ年以内以上収入  
として取っている場合には公営住宅を建て、他の適当な  
家屋を見つけていただく。こういうことでございます。  
なお適当な家屋を見つけると申しても時期があるわけ  
でございまして、指名をされた後も何日か入っておいた  
その関係は六条でございまして、収入が超過を

たときに市長に住宅の幹施を申し出て幹施を依頼  
することが出来る。こういう事がございします。

二七条は二四条にからみますが、割増し家賃でございます。  
これも今回住宅法の改正により入っておる人には不利益  
となつたのです。この条によつて特別に定められた  
家賃よりも割増しの家賃を取られていく。これはど  
れどれ二項に細かく書きつております。

二八条、二九条は大差ございません。

三〇条 これは市に住宅管理あるには住宅に入っております  
ます者に住宅管理人ということであつていろいろ連絡等も  
お願いしてあるわけですが、旧条文はその取務の明確  
と申しますか、具体的に定めてありませんでしたのを  
新しい条例で細かく定めたわけでございます。  
三条は大差ありませんので省略いたします。

△△条は新しく入れましたもので収入状況等を市長が  
この規定によりまして判増し家賃等の決定をする。  
こういうことでございます。

△△条 △△条は省略いたします。

附則の△△項にて規定をいたします。ものは現在も  
い条例によりまして処理をしておりますが、これを  
新しい条例によりまして処理をいたします。こういうことで  
認める。こういうわけでございます。

これは現在住宅は二〇戸でございます。署名にござんたもの  
と入れて四〇戸ということになります。現在入居  
しておりますのは一種一〇戸、一種一〇戸でございます。

△△はこういう条例によりて決められてあるもの  
新しい条例では決められたものである。こういう  
ことでもなっております。

なお入居の基準といたしまして七条で委員会を設  
けまして決定をいたすこととを甲一上げま  
す。この決定の内容と甲一するが、基準は入居の  
申込みの履歴に基きましてありまして、申込みの現在  
状況というものが、一か二かありまして、これを点  
数制にいたしまして合計を一点教の多寡から  
入居を許可する。こういうことといたす。一  
なお、こういう一点教の人が入居をさせる住宅よりも  
多い場合には、抽せんによつて決定をいたす。  
こういう様な規定を設けてあります。

以上概略でございますが、説明を終ります。

議長（山本 昇君） 議案を三号に及び御質疑ございせんか。

議案を三号討論有略原案通り決定いたします。  
議案を三号に及び御質疑ございせんか。

御異議な——と認めます。

議長（山本 昇君）

御異議な——と認めます。 ようく本案は原案通り決定いた——ました。  
暫時休憩いた——ます。

≡時 〇 分

休憩

≡時 〇 分

再開

議長（山本 昇君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

（書記朗読）

議案第二四号 館山市職員定数条例の一部を改正する条例の制定について

・庶務課長(鵜沢貫寛君)

議案を面会についで御説明いたします。

教育委員会の事務局の職員現在吏員の欄に面会  
でございしますが、これに一名指導主事を増員して  
指導行政の強化をはかりたいというものでございします。  
その他の職員の下に四名の雇員をおるわけですが  
この四名を吏員に昇格させたというものでございします。  
実質的に増員は一名でございします。

・三番(黒川佐太郎君)

一人増員というのは社会教育の方ですが

・庶務課長(鵜沢貫寛君)

社会教育主事ではなく学校の方の指導主事でございします

議長(山本昇君)

議案を面会討論省略原案通り決定いたします。



御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(山本 界 君)

御異議なしと認めます。よろ本案は原案通り決定いたしました。

一 食 山 司 請 令

議長（山本昇君）

続いて日程第二議案第二五号

（書記朗読）

議案第二五号

館山市職員給与条例の一部を

改正する条例の制定について

。秘書課長（山本潤昶君）

議案第二五号について御説明申し上げます。

今回の給与条例の一部の改正は特殊勤務手当  
宿日直手当期未手当この三点の改正でございます。  
まず、特殊勤務手当は第三条第二項で規定して  
あるわけでございまして、雇員のいやがる仕事、危険  
の伴った仕事、そういう仕事に従事している  
者には特殊勤務手当を支給しているわけでござい  
ます。その今までの特殊勤務手当を支給している

以外の取買で危険な仕事、いやがる仕事に  
 従事している取買、オ一号で、社会福祉業務  
 関係で、ケース・ワーカーといひますか、この取買に  
 ついて一月五百円を特殊勤務手当として支給しない  
 次に休養施設従事手当、これは鳩山荘に従事  
 している取買に支給する手当でありますか、これは  
 危険ということとはほとんど考えられませんが一応  
 社会常識として、取買があつて、取務にたがさ  
 ねば、ということはいやな仕事、そういう観点から  
 支配人には一月三千円、その他の取買については一月  
 千円を支給する、ための条例改正でございす。  
 次のオ一四条オ二項中、二百円を三百円に改正する、  
 これは、宿日直手当でございす。現在本市では

宿日直の場合は二百円の範囲内において支給する。こういうふうに規定しておりますが、昨年一二月に調査したというにようになりますと、県下一七市の中で館山の二面円の範囲内というのは最も近いので、それ以外の最近のところでも二百五十円でありました。最高は三百六十円、三百五十円というふうになっておりまして、これを館山市を除いた一六市、八日市場は入っておりませんが、これを平均いたしますと二百九十五円になるのでございます。

このために今回条例を改正いたしまして二百円の範囲内を三面円の範囲内に改正しようとするものでございます。次の第一五条第二項中百分の六十五を百分の七十五に百分の百四十を百分の百五十に改める。これは期末手当でございまして百分の六十五というのは六月の期末手

当でございます。その次の百分の百四十というのは  
一二月の期末午当でございまして、これの改正は先般  
給与条例の改正をしたときに果の総務部長の方か  
らも國家公務員並みにした方がよいというふうな  
通牒を受けておりまして、先般の議会でこれを  
提案しなかつたのは新年度から適用するため、今回  
提案したものでございます。以上であります。

○二〇番(秋生四七郎君)

今の御説明で大体了解したのですが、休養施設  
これは鳩山荘でよろいか、いやがる仕事というか  
そんな気分的に支配人はじめ、そういろいろは、気分  
はないでよろうか。

○秘書課長(山谷潤一郎君)

いやがるというのは従事している職員は一生懸命

やっておりますが一般常識として簡単に申します  
と旅館の番頭のような仕事までやるので、これは  
特殊勤務手当を支給する必要があると思うので  
す。

この番(萩生四七郎君)

先ほど市長さんの御説明でも、この年当りのものに  
ついては異議はないのですが、要するにあそこも  
利用者も多いし、市の観光面からいってもまた他の  
面からいっても、拡充強化するのだというふうな  
市長の御方針で結構だと思ふのですが、それだけ  
利潤が生み出されるならば施設費に向けるべ  
るのびすが同時にどういふふうな内容について  
特別会計ですか、経理の面でこの辺ではつきり  
一つの独立採算であると同時に明らかにシステ

ムを作り上げて置くということが必要ではないか  
と思う。どういふ幕意味で例えばものの買入れ方  
その他についてもやはり相当慎重を来して  
復式簿記によるある程度償却勘定、資産勘定  
負債勘定においてモはつきり一線が打ち  
出さなければならぬ。この点を希望します。  
て解いたります。

。市長（田村利男君）

支配人はじめ一二時一時過ぎまでやっている。非常  
に一生懸命に責任をもつてやっておりますので、  
はたから見ていると、いいということはいや、く  
ながらという言葉を使ったわけでございます。  
これで御了解願えると思います。

次に復式簿記で嚴重にやっております。そのために



商業科をでた職員を使ってやっております。

議長（山本昇君）

議案ヲ二十五号討論省略原案通り決定いたします。御異議  
~~御異議~~ ございますか。

（異議な一と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）

御異議な一と認めます。よって本案は原案通り決定いたしました。

議長（山本昇君）

続いて日程ヲ一二議案ヲ二六号

おはかりいたします。

本案の朗読を省略してよろうございしますか。

一異議な一と認めます。

直ちに説明を求めます。

議案ヲ二六号

鑑山市職員の退取手当に関する

条例の一部を改正する条例の制定  
について

。秘書課長（山谷潤和君）

議案ヲ二六号について御説明申し上ります。この

条例の改正は二点ありますが、一つは国家公務員等  
退取手当 暫定措置法の題名が改正になっており  
ますのでこの退取手当ヲ七条ヲ五項中に国家公務員  
等改正になりまゝしたのでその点と国家公務員等退取  
手当法 この法律に変わったものでございします。

次にオ七条のオ七項の次に一項を加える。八項でオ十の  
条の規定による退取手当の額を計算する場合に  
おける勤続期間の計算についてはこのオ十の条の  
規定、失業者の退取手当を規定した条文でござい

ます。これを規定しておかない場合には、館山市  
の職員が失業保険法が適用になりまして、失業保険  
料を払わなければならない。給料の千分の七を市が  
また職員個人が千分の七を失業保険料として払う。  
それを免れるためには、館山市の退職年当の条例で  
こういう第七条の八項以下二項まで、こういう規定  
を作らなくてはならない。そういうので、今までも  
この規定は一部あったのですが、その後失業保険法が  
改正になりました。この改正になった点は、失業して  
就労するときに、就労仕度金というものをあす、その  
点と今まで失業して一ヵ年以内とあったのが、  
公共職業指導所、あそこに入所している期間も加え  
てその期間を失業期間とみなすというふうな法律  
が改正になりましたので、それに付随いたしまして

どうしても館山市の退任の方の条例もそれを加えなくてはならないという県の商工労働部長からきた通牒によりまして改正するものでございます。この改正は早急にといいことで三月末日までに条例の改正を行って改正条例をそえて千葉県知事に宛て報告しろ。こういう通牒がありましてので、今回この議会で提案した次第でございます。

・議長（山本昇君）

議案オニ十六号討論省略原案通り決定いたします。に御異議ありませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

・議長（山本昇君）

御異議なしと認めます。よって本案は原案通り決定いたします。

○議長（山本 昇君）

続いて日程才三議案才二七号乃至才三〇号一括上程  
いたします。

（書記朗読）

議案才二七号 四惟災救助資金蓄積条例を~~廃止~~止する

条例制定について

議案才二八号 北条振興財産積立規程を~~撤~~止する

条例制定について

議案才二九号 基本財産を廃止するについて

議案才三〇号 特別基本財産を廃止するについて

・総務課長（山口 実君）

議案才二七号乃至才三〇号について御説明申し上げま  
す。この条例は昭和二二年四月地方自治法施行前の  
町村制に基いて作られた条例でございまして昨午

本會議で議決をいたした地方財政法による財政調整金条例これに統一いたしましてこの四議案を廃案しようとするものでございます。

議長（山本 昇君）

議案ヲニ七号乃至ヲ三〇号討論省略原案通り決定いたします。御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本 昇君）

御異議なしと認めます。よって四案は原案通り決定いたします。

議長（山本 昇君）

続いて日程ヲ一四議案ヲ三一号

（書記朗読）

議案第三号

継続費設定について

。総務課長（山口実君）

議案第三号について御説明いたします。

自治法の第三十六条に「普通地方公共団体の経費を以て支弁する事件で数年を期してその経費を支払うべきものは議会の議決を経てその年期間各年度の支払額を定の継続費とすることが出来る。」このような条項がございます。本条によりまして、館山市の尿処理施設といたしまして昭和五十六年から五十七年の継続事業といたしまして六千三百七十五万円を支払予定にいたしまして、継続事業として認定を願うものでございます。

。この番（サ秋生四七郎君）

当局に伺いたいのですが、尿処理という問題は、一応

協議会等におきまして市長さんから説明があり皆さんが了解していることなんでしょうがこれが具体的内容等につきましてもまだ新しい新年度予算に初めて盛り入れられるのではないかと思います。従って新予算との関係があるように思われるのでございすけれども別個に三六年度の予算審議を全然やっております。先にもつて既成事実としてこういうものを設定を要求するということの必要性和申すかその辺をちよつと御説明願いたいと思います。

・助役（小島武男君）

一、取処理施設につきましてもただいまのお話の通り市としてはどうしても今年度明年度には完成をいたすということとで結論づけられておるわけでございます。そこで今課長からお話くだいまいなように継続費



設定ということがすでに予算議決になることだと思っています。申すまでもなく継続費ですから本年度独立の原則の例外となる措置が継続費ということでございますので要するに二年分に関する限りこの予算を審議願えばそれで予算議決上げ成立している。こういうことになるわけでございますから一般予算と関係なくこの予算すでに一つの予算でございます。

。二〇番（荻生田七郎君）

再質問申し上げたいのですが、尿処理施設の必要性ということば認めている。当局もそろそろ御意見でございすがその具体的計画についてはこれから三六年度の予算において審議する過程ではないかと思うのです。すなわち三六年度七年度の二カ年継続事業と承知しております。それだけだ問題はこうした予算スケジュール

というものをきめて一まつて市会がこれを承認したといふことになる。この範囲内でもつて事前承認をしたのだ。だからこういふ計画の下に具体的内容の設定承認を求めねばいいのだ。市会はそのれを認めていふのだ。という既成事実が設定されるおそれがある。それともいわゆる昭和三六年度、七年度でやることは前年度より本年度で承認をしなければならぬという規定があればいいが、その点御説明願います。

。助役（小本武男君）

ここで予算を議決提案いたします。ゆえんのもつて要するに三六年度と三七年度にわたる一取処理に関する限りの総予算です。これが議決になるなければ、あとは一般会計の繰入れといふものは予算外の義務機関の議決が含まれるといふこととなるのですが、ここでこの予算が

審議されるということは一、取扱いを作るといふ前提なん  
です。

二の番（萩生田七郎君）

要するに議会審議というものはこの程度のスケールでこ  
ういう方法でこの辺の場所で、そして市民がこれだけ利益を  
受けるというふうな具体的なデーターがでてくるので、市会  
が審議してそれでじゃあいいかというものが順序では  
ないかと思うのです。ところがどういうものはこれから  
審議過程であると、その前にまず総予算はこうだと、  
だから議会がこれを認めれば、議会は二カ年間にわたって  
この予算で作るのだということを承認したことになる。  
あとの内容がさっぱりわからない。どういふ説明がない  
うちに「この4に1」といふ要求のようには受け取れるの

ですが、どう解釈してよろしいかどうか。

私はどういう意味でこれはあとまわしにして新予算の内容を審議と並行して審議する性質のものじゃないか、  
こう解釈いたします。

・総務課長（中山実君）

ここに示された額は一応市から支出し、または国から  
起債をあおぎ、国庫補助金をあおぐ、そういう財源の  
内訳について継続費の内容を議決いたしたか、  
ものでございます。

○二〇番（秋生田七郎君）

私の申し上げていることは、要するにまだ審議されて  
いないのだ。こういう事業をその前に「うのみに」と  
いう要求のよるに思えるのですが、  
いって申しますれば  
議会軽視にっかる問題になりませんか。  
私は決して

悪意にとっておりません。その点を明確に御答弁願えば  
私は審議に応じます。

○市長（田村利男君）

まことに不手際で申し分けありませんが、議会軽視の  
意図はも頭ありません。さらに予算だけを残してあと  
全部小さな議案をきょうやってしまおうじゃないかと  
いう気運がありましてはつきりいうとうっかりしておいた  
ということもいえまゝですが、同時にやってもおろそかな  
いいことだと思ひます。

○この番（萩生田七郎君）

市長さんといひ合うつもりはないのですが、小さな問題と  
して取り扱うにはもっと大きな問題じゃないかと思ふのです。  
金額の点についても、少くとも二カ年継続事業として  
行われる市民待望の注視されている問題です。一つ

御研究下さって新予算と並行して考えろべきだ、  
こう思うのであります。従つてその点を了解しな  
限りこの審議に応じられない。私個人としては、

・助役（小島武男君）

今市長から申しましたように三六年度、三七年度  
予算でございますので当然、本予算の関連体は十分  
ございます。ですからここで提案いたしたものの決定  
は本予算と一語にという点、もうことに結構であると  
考えております。

・九番（吉田勇治郎君）

ただいまの一取処理施設継続事業の件でございます  
が、私鐵運の委員として考えてみますと、何か  
これはそのほかの説明が課長さんからあったよう  
に記憶するのですが、私たちに説明したのと、今の

やってもやらなくてもいいというのではちよつと  
竹肋が通らないようなところがありますかもう  
一度御説明願いたい。

・総務課長（山口実君）

私議連のところではこう思ったと思います。

継続事業の場合にはおの／＼支那年度に属する  
経費と議会で認定していただく関係上継続費  
設定の件を提出する。このように申上げたと  
思います。

・議長（山本昇君）

暫時休憩いたします。

四時一〇分

休憩

五時〇〇分

再開

。議長（山本耕君）

休憩前に引を続き会議を開きます。

。総務課長（山口実君）

議案才三一号の継続費設定について申し上げます。  
本継続費は二会計年度にまたがる事業の  
関係上、この事業に要する経費についてその  
総額年限さらに各年度割当ての支出額を  
予定いたしましてあらかじめ議会の議決を  
経て置くこのように指導されておる関係で  
ありますのでこの継続費を上程したわけでは  
ございませう。

。三六番（嶋貫杜作君）

二カ年にわたってきめて置くところということは  
いいとしてそれはあなたの独断かそれとも



しかるべきなにかあってそうするのか。

・総務課長（山口実君）

この継続費については地方自治法二三六条の継続費これによって認定を得ようとするものでございます。

・三六番（嶋貫壮作君）

何と書いてありますか。お読み願います。

・総務課長（山口実君）

「普通地方公共団体の経費をもつて支弁する事件で数年を勘してその経費を支出すべきものは、議会の議決を経てその年期間各年度の支出額を定め継続費とすることができ、」  
このように銘記されております。

・三六番（嶋貫壮作君）

それを先に述べたという文句は聞き落としてまいりましたが  
どこにありますか。

・総務課長（山口実君）

この中にはありません。さらにこの二三六条の説明  
の……

・三六番（嶋貫桂作君）

おわかりにならないようだから私の質問は打ち切り  
ます。

・二〇番（サ秋生田七郎君）

くどいようでありますがこの計画には賛成  
であります。ただ問題は今のようにな年度内と  
いうことは三六年度、三七年度四年にわたる計画  
でございますからこの三六年度の予算審議の  
過程においてこれを生行して審議するべき

性質のものとこう解釈しておる。一かゝその内容は  
市会は全然知らない。すなわちやるといふ事実のみ  
知っておつてあとはつんばさじきにおかれておると  
いう現象これでもいいですか、私はいけないと思ふ。  
ですから私の申し上げるのはこの事實はそれとして  
主行して審議すべきである。單獨に内容もわからない  
で六千万円の金さうのみにさせるという態度方針に  
受けとれる。これはどうも本末転倒ではないか、もう  
少しくわしく内容を説明してもらいたい。どうして  
納得しにくう審議に応じようというふうにいつて  
おるのですが課長さんいかがでしょう。

・総務課長（山口実君）

継続費の設定でございますが、これはやはり事業  
をする場合にこれにつきまゝではさらに予算化が

必要なんです。その予算によって事業が執行される  
ことになりす。一応これは財政計画の認定と  
得るようになりす。

○議長（山本昇君）

暫時休憩いたします。

五時一〇分

休憩

五時一五分

再開

○議長（山本昇君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

○十二番（黒川佐太郎君）

議事進行について申し上げます。ただいまの問題  
は法的に当局のいう点もふかろうと思ふ。

ただ議員側としてはもうサー内容にタフサーたものがなくては工合が悪いのではないかと、実情に即した意見だと思っております。そこで当局からもうサー具体的なものを御説明下されば納得がいく。こういうふうに考えるものでございます。

厚生課長（伊藤幸太郎君）

処理場の大ざっぱな構想につきましては主管理課の方から御説明申し上げます。一応予定しております。

処理場としましては現在の館山町の人口その他からいたしまして二五〇石の処理のできる可能性のあるものを作りたいという予定でございます。その方式にもいろいろございますが、一応係の方といたしましては加温式消化槽方式といういわゆる薬品を使わなくてで処理する方法でございます。予算でございます。

が概算をまゝして、ここにございますように六千三百万円あまり、これを約二カ年にわたって継続して施行したいというものでございます。おもひ事業の内容でござい  
ますか、まず消化槽それに付随するところのいろいろの装置、そういったものが約四千八百万円あまり、それから整地であるとか又管理の住宅であるとかという付属の工事費といふ、まゝして約六百三十万ばかり総工費六千三百万余りのものを一応予定したものでございます。それに対してまゝしてここにもございますように、国庫補助あるいは起債、一般財源の持ち出しというふうなものを予定いたしまして提案してあるわけでございます。

二〇番(女校生四七郎君)

や、具体的に説明を聞いて参考にしたいが

もう少一内容を聞きたいのですが、この六千三百万の予算を設定する過程においてもちろんいろいろの式があるうと思ひますけれども、そういうものを比較検討しておひりになったと思ひうのぢやか、この点ちよつと御説明願ひます。

。厚生課長（伊藤幸太郎君）

ただいまの御質問でございますが、私も係りとしてまいりてますが、果内で茂原の処理場を見学いたしまして、果外で約三ヶ所の所々を視察いたしまして、処理場の内容につきましていろいろの面をござるだけ検討したつもりでございます。それから経費の問題でございませうけれども、今下話してございます。たゞ、いろいろの式があるわけでございますが、それらにつきまして、慎重に考へなければならぬけれども、心

従来実施されておりました各施設を総合いたしました  
比較検討いたしまして概算として計上いたわけで  
ございます。

○二〇番（萩生田七郎君）

大体納得いたしましてが、要するに六千三百万という  
ワケは、ここでもって議会で承認すると二カ年間に  
わたって一応この総額で作るというわけという  
認定、承認するわけですね。そうなると今後  
生れてくる条例の制定あるいは具体的な予算の  
支出方法とかあるいは敷地如何によつての経費の変更  
というものが起きてくると予想されるのびすが、そういう  
場合、これは確固不動たる予算があるように  
解釈するの、か弾力性のある一層処理問題は二カ年に  
わたって作つてよろしいという議会の承認を受けて



その他のものについては弾力性があると認めてよろしいか。

市長（田村利男君）

大体御意見の通りでありまして本年年度の予算に  
三千万円組みまして来年又三千万円組みますが、

本年度の三千万円組んでよろしいかどうか、このように  
わけでございします。その下地を大ざっぱに六千三百万円という  
数字を上げまして本年度の予算で最悪の場合討正されて  
二千五百万円でもいいじゃないかということであればこれが結局  
二千五百万円になるわけでございします。又これじゃ足りないかう  
六千三百万円にしたらどうかという御意見の訂正があった  
とすればこれにとらわれないということばはっきりいえると  
思いうわけでございします。

二五番（鈴木市蔵君）

ちよっと今の質問に関連性がありますから何てみたい

と思いますか六千万という予算を組んで二年間でこの事業をやるという場合に今後安くていい方法があるやれるということになれば市長さんどちらをとりますか市長(田村利男君)

一番いい方法でやるということは一応申上げます。例えは薬品の処理方法が一番安くてもいろいろな点においていいと思えばその方に変更するにやぶさかではありません。

。四番(志村信作君)

ただいま市長さんの御説明に化学処理の方が安くやるとおっしゃったが化学処理の方は厚生省がまだ認可していないと思いますかその点いかがですか。それか二五〇石の線を出しますか。それか何人を対象の二五〇石でございましょうか。

市長（田村利男君）

三万人でございます。それから薬品の問題については諸条件という言葉で厚生省が認めていないということといったつもりですが言葉が足りなくて申し分ありません。

四番（志村信作君）

ただいまの御説明了解しました。ただ三万人が対象だとおっしゃいますか。六万市民といっていました三万人という半数でございますか。これでは足りないと思います。又今年あたりは七〇万外客が入ってきております。それを考えての二五〇石ですか。

助役（小出武男君）

二五〇石というのは館山市としてサー余剰がある程度でございます。大体今までのデータから

考えますと館山市としては二〇〇石だが将来を  
考えまゝ二五〇石構想に変えたわけでございます。  
さらにまた夏の問題でございますがこの点に  
つきまゝては一時的の現象でございますので  
常時その施設をするというとも不経済に  
なるので夏は夏でまた別個の対策を考えたいと  
思ひます。例えて申しますれば予備タンクを  
作つてそこに入れておいて、それで順次  
それを消化していく。こういう方法があると田ん  
びんがすす。

三番(田村喜兵衛君)

主管課長にお聞きしたいと思ひます。

各地を視察したとおつていますか、その視察した  
結果、あつたかたが指定したところを教えて

もらいたいと思っております。

厚生課長（伊藤幸太郎君）

視察の結果でございまして、けれども私の見て参りまうに範囲内では最近非常に処理方式が進歩いたしまして決りて一取という言葉から感じます。そういったものは全然ございまして、衛生的に処理されてある。一、古い施設も

ございましてけれども現在のところは新しい施設としては今申しあげますように衛生的な処理場が作られてある。そして決りて危険のないような状態だというふうに感じております。なお県内では茂原と勝浦、県外では宇佐美、熱海をみて参ります。

次に第一候補地といたしまして一応神戸地区の

谷藤原をあてております。

。三番(田村喜兵衛君)

もう一つ伺いますか。あなた方宇佐美と熱海に行ったというのを聞きましか、熱海はそれで満足しておりますか。宇佐美の話を聞くと魚やいけすかだめになつて観光もだめになつたということも組合の人かいつておる。あなたのおっしゃる言葉と違ふじゃないかと考へます。この点について

。厚生課長(伊藤幸太郎君)

宇佐美の視察の結果でございますが、御参考考に申し上げてみたいと思ひます。

大体その土地の漢に及ゆ、影響が視察の中心だったりでございます。その点につきまして組合長さんのお宅を尋ねまゐりていろいろなお話を一して

参ったのでございませう。宇佐美の処理場の場合  
伊東市のものをもってきて処理するということ  
ございませうので最初はやはり相当の不安と申し  
まゝようが、反対があつたのでございませう。組合長  
さんの言によりますと一年半ばかりいろ／＼反対の  
陳情を続けたというふうなことを申しておりますが  
結局暇と資金がなくなつて買けてしまったのだこれは  
いい言葉ではありませんか。そういういた状態だといつて  
おります。ただここで考えますことは、宇佐美の  
場合は水が非常に不足しておるのだ、そういう  
ございまして水道装置も現在考えておるのだ  
、そういうございませうが、現在処理の方法がまずい。  
海に流れ込む水も相当色が濃い。水の不正によつて  
施設がまずいというところで、国や県当局が指導す

しております。

二の倍乃至二五倍程度の水で正規に処理をした場合にはおそろしく被害はなからうといひますのは水産試験所とか果の係とかあるいは厚生省とかいろいろ専門の立場のところへも組合とていったらうでございます。それらを総合しましたときに今申し上げたように正規の処理方法をしてた場合には大丈夫だということも各方面でいっておるのでそれ以上我々としてもかく理論的には申し上げられないのであります。一か一結論としてはいわゆる気持の問題が相当左右いたすのであるけれども以上申し上げたように一応組合とては約一年半にわたる反対を打ち叩いて市役所と一応話をつけた。大体以上のような結果で



ございます。

議長（山本昇君）

御質疑ございませんか。――と認めます。

議案オ三十一号原案通り決定いたしますに  
御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）

御異議なしと認めます。よって原案通り  
決定いたします。

議長（山本昇君）

続いて日程オ一五議案オ三十二号 三十三号一括上程  
いたします。

（書記朗読）

議案才三二号

起債について

議案才三三号

起債について

・総務課長（山口実君）

議案才三二号起債について御説明申し上げます。

昭和三六年度の起債事業といたしましてここに

上程いたしまして六つの事業についておのゝ起債

限度額をこのように定めまして起債をおおざう

とするものでございます。

次に才三三号議案休養施設建設事業費として

千二百万円起債をおおざ西岬の鳩山荘の増築

工事をしようとするものでございます。

・三一番（田村喜兵衛君）

館山漁港の問題がありますか。これは毎年問題

になるが負担金が納まっているかどうか地元寄付金か

納まっているかどうか。

。建設課長（新井重助君）

お答えいたします。三十五年度はただいま寄付申込み三十六万円ございまして十万円入っております。なお三十四年度やはり十万円、二十二万円の不納となっておりますので、これも合せて納入してもらおうとのお話となっております。

。三一番（田村喜兵衛君）

もう一つお尋ねいたしますが、毎年あの港は納めなくても仕事をやっておる。他の漢港をもっている人は正直に納める。正直者が馬鹿をみるような考えをもっておりますが、この点どうですか。

。建設課長（新井重助君）

もちろんそういうふうな気運はございます。

いかし地元の財政状況<sup>概況</sup>というところも考えなければなりませんか。不漢というところも考えなくてはならない。それについてまけるとか、まけないというところでも地元の人か港を作るといふ熱意のもとにどうしても負担金を納めなくてはならないというところをいっておるのでございます。

。議長（山本昇君）

議案オ三ニ 三三号原案通り決定いたしますに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

。議長（山本昇君）

御異議なしと認めます。よって原案通り決定いたします。

・議長（山本昇君）

日程表は昭和三六年度の一般会計特別会計当初  
予算案でありますか。これは次会の会議の日程と一  
日程を一七と上程いたしたいと有じますか。これに  
御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

・議長（山本昇君）

御異議なしと認めます。よって日程は変更されました  
日程を一七議案一四の号を上程いたします。

（書記朗読）

議案一四の号 一時借入金について

・総務課長（山口実君）

議案一四の号 一時借入金について申上げます。

昭和三六年度の一般会計予算の資金運営とする

ために資金繰りに必要な場合に五千万円以内の借入金  
をしようとするものでございます。ただ、こうとする  
ものでございいます。

議長（山本昇君）

議案第四〇号原案通り決定いたします。御異議  
ありませんか。

（異議なしと呼ぶ者あり）

議長（山本昇君）

御異議なしと認めます。よって本案は原案通り  
決定いたします。

日程第一八議案材料四三号は議案の内容について  
詳しく研究したいという理由で本日の日程  
より除いてほしいという申し入れがありました。  
本日の日程より削除いたします。御異議あり

ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(山本昇君)

御異議なしと認めます。よって決定いたしました。  
議事日程についておわかりいたしました。

明二日一般審議及び各予算案各款説明となつて  
おりますが本日送付のあります一般議案全部を  
議了いたしました。従いまして明二日直ちに各会計  
予算案の各款説明といたしたいと思ひます。  
これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

。議長(山本昇君)

御異議なしと認めます。

よって日程は変更されません。

本日の会議はこれをもって散会といたります。  
次回は明二日午前十一時開会としその議事は  
昭和三六年度各会計予算案の各款説明と  
いたります。

散会いたります。

五時五十分

散会



